

(通巻第29号)

2023年度事業報告書



社会福祉法人サンフレンズ

目 次

I 法人の理念と運営方針	1
1. サンフレンズの理念	
2. サンフレンズの運営方針	
II 2023年度 法人全体の事業報告	2
III 事業所別事業報告	
1. 特別養護老人ホーム事業	
上井草園	5
サンフレンズ善福寺	6
2. 小規模多機能型居宅介護事業	
おしす上井草小規模多機能ホーム	7
3. 通所介護事業	
和田ふれあいの家	8
和泉ふれあいの家	9
松ノ木ふれあいの家	10
4. 居宅介護支援事業	
サンフレンズ上井草支援センター	11
5. 地域包括支援センター事業	
ケア24上井草	12
ケア24善福寺	13
ケア24和田	14
6. 生活協力員事業	
和田みどりの里	15
和泉みどりの里	16
7. 法人事務局	
人事・経理・総務	17
IV 理事会・評議員会の開催状況	18

V 職員に関すること	
1. 研修受講状況 19
2. 超過勤務時間数の推移 25
3. 人数・平均在籍年数・平均年齢 26
4. 採用試験実施回数・採用人数 26
5. 安全衛生業務報告 27
VI 事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム・通所介護事業・小規模多機能居宅介護	
1. 利用状況 2. 経営状況 3. ショート利用状況 33
4. 職員資格保有状況 5. 実習生・研修生等受入状況 34
6. 和泉ふれあいの家 配食実績 35
VII 事故報告	
1. オンブズマン委員会 苦情要望報告 36
2. 車両事故報告 37
3. 介護事故報告 38

I 法人の理念と事業の運営方針

社会福祉法人サンフレンズの理念と事業の運営方針は、次のとおりです。この理念と事業の運営方針に沿って、法人を運営します。

1. サンフレンズの理念

(1) できるだけ自由に

・・・画一的、管理的にならず、一人ひとりがその人らしく生きられる。

(2) どこまでも対等に

・・・一人ひとりの人権を尊重し、すべての人が上下関係でなくつきあえる。

(3) 他者への思いを生かし合う

・・・地域社会でともに生きる人々との連携、地球環境、平和への願いを大切にする。

2. サンフレンズの運営方針

(1) 利用者のプライバシーと自立を尊重し、自己実現を助けることを一人ひとりの立場に立って行います。

(2) 利用者、家族、ボランティア、職員、理事がお互いの立場を尊重し、民主的運営を行います。

(3) 他のグループや世代間の交流を図り、生活の質を高め、地域の福祉文化の拠点となることをめざします。

Ⅱ 2023年度 法人全体の年間事業報告

1. 年間の重点目標

(1) 健全経営

2023年度は、事業活動収支1億27万円、財政調整積立金5,300万円を積み立てたうえで資金収支差額44万円を残すことができました。

特別養護老人ホームで減収となりながらも収支を残せたこと、在宅サービスの収益が前年度比で増加したことによる収支の確保が要因としてあげられます。

① 介護保険制度改正への対応

(感染対策・災害対策・データに基づいた介護サービスの構築)

法人全事業所で感染対策・災害対策のBCP策定を完了しました。関連研修、訓練を開始しています。通所の科学的介護推進体制加算は、ICT化完了の後に2024年度中に算定を開始します。

新型コロナウイルスは5類感染症への変更により、外部者の受け入れを一部緩和しましたが、特養では深刻なクラスターに見舞われた時期があったため、対応は変わらず一進一退が続いています。

② 松ノ木ふれあいの家の収益向上策

今年度は体制整備と収支の健全化が急務でした。しかし、体制面については目指す体制を整えることができるまで9か月間を要しました。その中でも収益は少しずつ改善し、前年度に比べ大幅に収支改善することができました。今年度は年間を通じて現在の収益力を維持することで、5期続いた収支のマイナスを脱却します。

③ サンフレンズ善福寺の増床・大規模改修事業

2023年4月に着工し、6床増床及び浴室棟の増築移設、既存建築部分においては屋根葺き、内装更新、外部塗装を計画通り終了しました。2024年1月には事業を再開する計画でしたが、実際には1か月期間を延長して事業再開する運びとなりました。費用面ではほぼ計画通りでしたが、施設既存部分の照明や空調設備など、今後も必要な設備更新が残されています。今年度は工事により低下した稼働率の復調と増床部の稼働を軌道に乗せていく1年となります。

(2) 地域貢献

新型コロナウイルス5類化移行も、法人としては職員による感染予防対策は従来通り継続してきました。そのうえで、特に在宅サービスについては外部関連団体等の受け入れを再開してまいりました。また、杉並区の要請に応え、新事業も開始されています。

① 障害者福祉サービス事業（共生型生活介護サービス）の開設

通所事業3所において、共生型生活介護の指定を受け、事業開設いたしました。現在は和田ふれあいの家にて2名のご利用者にご利用いただいております。

② ボランティア・実習生の受け入れ再開

上井草園では会議室貸出の一般開放を再開しました。全事業所で実習生の受け入れを再

開し、在宅サービス事業所ではボランティアの受け入れを再開しました。和泉ふれあいの家では有償ボランティアマッチングサービス「スケッター」を活用し、地域の様々な担い手によるプログラムの提供が行われるようになりました。

(3) サービスの質の向上

① 感染症予防対策への注力

新型コロナウイルスは5類とされましたが、今年度も多くの事業所で感染拡大期を経験することとなりました。特に、上井草園では2度の大きなクラスターが発生し、現在も後遺症の治療を余儀なくされているご利用者がいらっしゃる状況です。2024年度からの介護保険制度改正により、施設の感染症対策のあり方が一層、強化されていきます。制度の主旨に適応し、安心を感じられる環境構築を継続して検討し、必要な事は実行していきます。

② 松ノ木ふれあいの家の2単位事業

人員体制を整えるのに時間がかかりましたが、体制が整ってからは事業のPRを計画的に行う事が可能になりました。今年度は収益面でも大きく改善しています。

(4) 人材確保（人材育成）

昨年度からの課題を受け、大学や養成校への訪問活動、採用面接調整のスピードアップ、求人サイトの立ち上げ、外国人雇用の検討、他法人との連携による発信活動を積極的に行いました。今年度の結果は下記の通りです。

常勤職員	2022年度	2023年度
次年度新卒説明会参加数	カウント無し	26
次年度新卒採用面接受験者数	カウント無し	17
次年度新卒入職者数	1	4
中途入職者数（次年度開始含む）	13	13
退職者数	9	6

① 研修の実施・派遣

介護職員初任者研修は年1回、実施致しました。法定研修となった認知症介護基礎研修についても、計画通り実施いたしました。職員対象に「認知症の人の心の声を聞いてみましょう」、管理監督職向けに「上司の面談スキル」のテーマで階層別研修を実施しました。

② 人事評価

計画通り実施いたしました。

③ 離職防止対策

新卒4年目及びキャリア採用2年目の職員を対象に「キャリア面談」を実施し、職員自身のビジョンや法人へのニーズなどを聞き取り、様々な労務管理施策に反映致しました。理事と事務局員からなる給与・採用ミーティングを定例開催し、職員の処遇に関連する諸制度の改正・構築を行いました。

2. 部門別

●特別養護老人ホーム

上井草園では照明と空調の大規模更新工事が行われており、次年度にかけて継続中です。感染拡大期に2度の大きなクラスターを経験し、いま一度、感染対策の注力が必要です。

サンフレンズ善福寺では、増床・大規模改修工事が終了し、6床増床が完了しました。工事により中断していた事業の再開と、増床部分の稼働を軌道に乗せる必要があります。加えて、既存部分の老朽化による設備更新を計画的に進める必要があります。

●通所介護事業所

収支が大幅に改善し、今年度の法人の経営安定化に寄与しました。特に、松ノ木ふれあいの家は、前年度の第4四半期以降から続く改善傾向を継続し、大きく収支を改善しました。下半期からは課題であった人員体制も整い、2024年度は実績面でより成長する期待があります。

3所とも、共生型生活介護の事業指定を受け、初めての障害者福祉サービスを開始しました。和田ふれあいの家でご利用者を受け入れています。

和泉ふれあいの家では有償ボランティアマッチングサービス「スケッター」の活用で提供プログラムの充実化に取り組みました。次年度は新事業を行います。

●小規模多機能型居宅介護事業所

開設5年目にして、収支の黒字化を達成し、ようやく事業を軌道にのせることができました。年度を通じて人員体制が安定しなかった側面があり、今年度は体制の安定をはかりたいところです。

●地域包括支援センター

事業全体については、委託元である杉並区の事業評価において「適正」と評価を受けました。今年度から2024年度にかけて、杉並区施策として大幅な体制増強方針が示されたため、たいへん多くの職員が新規採用されました。2024年度は新たな顔ぶれの「育成の1年」となります。

部門内で主任介護支援専門員を1名輩出することができました。今後も引き続き、体制の安定化と業務の質の向上への取り組みの継続が求められています。

●居宅介護支援事業所

昨年度に引き続き、堅調に事業を実施しました。居宅からも、主任介護支援専門員を1名輩出することができました。杉並区全域で介護支援専門員や居宅介護支援事業所が枯渇する中で、地域の中核事業所のひとつとして稼働を継続できています。現在は、将来的に事業を継承していく資格取得者の獲得・育成が急務となっています。

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 空床をできるだけ減らし、入所希望者が速やかな入所を進める。	①特養稼働率96%以上 ②短期入所稼働率95%以上	①92.8% ②100.5%	①特養上期稼働率96.2% 特養下期稼働率89.4% 退所者31名 8月新型コロナウイルス感染症が拡大し、利用者52名、職員17名が感染する。職員は軽症で経過するが、出勤人員確保ができず、業務を縮小し新規入所も中止している。利用者は、入院者3名以外は園内で療養するが、体力低下、食量低下が続き、退所される利用者が増えることとなった。さらに、2月に2回目の新型コロナウイルス感染症が拡大し、利用者20名、職員6名が感染している。下期は稼働率が低迷したまま経過した。年間を通して感染拡大を予防することが稼働率の安定に重要である。パンフレットを作成し見学相談時に活用している。広報活動を開始し、ブログ、X(Twitter)による情報発信を行ったが、タイムリーに発信することができず活性化していない。来年度は、より自由な発信ができるように発信時の規制について検証していく。 ②新型コロナウイルス感染症が拡大した時期には、長期利用者以外は利用中止としている。緊急的な事情や虐待疑いのケースはできる限り速やかな利用の受け入れを行った。特養入所を希望する利用者を長期入所でも受け入れ、特養に空床ができた際には、速やかに入所できるように調整を行った。来年度は、医療処置を必要とする利用者の受け入れ拡大を行う予定である。	相談員 介護支援 専門員 介護職員 看護職員
	② 大規模改修に向けた計画を具体化する。	①準備プロジェクト1回/月開催 ②利用者家族への説明会開催	①0% ②50%	①利用者が他施設に移動し利用者が不在となる状況での杉並区の大規模改修案が検討された。利用者が移動する施設は、特養利用者には適切ではない設備が多く、相当な改修を要すること、その後に施設が特養への転換を予定しないこと等が明らかとなり、利用者が他施設に移動せずに行ける規模の改修を行うこととなったため、準備プロジェクトは中止となった。10月より空調設備、照明の更新工事を行い、来年度6月に終了する予定である。 ②園内で行う利用者家族の説明会は、新型コロナ感染症予防対策のため未実施。利用者家族への説明は、毎月発行する上井草通信にて説明を重ねている。	相談員 介護支援 専門員 介護職員
	③ 感染症や災害が発生した場合に日頃から備え、業務が継続できる体制を強化する。	①感染症対策の強化 ②BCP(災害・感染症事業継続計画)研修2回/年	①50% ②80%	①杉並保健所保健予防課職員の指導を8月新型コロナウイルス感染症拡大時に、2回、収束後に1回受けている。従来型特有の感染予防対策の困難さがあり、食堂、居室(多床室)で感染が拡大している。感染拡大時の居室移動、ゾーニング、感染者対応等その都度対応を変更している。基本的な日常の感染予防対策が5類感染症移行後は徹底できていなかった状況があり、来年度以降は徹底を継続することが特に必要となる。 ②感染症対策委員会、防災委員会による研修とBCP(事業継続計画)研修を一体的に行うことができているが、感染症拡大時期には、委員会活動一時中止、訓練計画も縮小せざるを得ない状況があった。来年度も継続して行う必要がある。	相談員 介護支援 専門員 介護職員 看護職員
地域貢献	① 福祉人材育成のために感染予防対策を徹底して実習生の受け入れを行う。施設の理解を深めてもらう。	①介護福祉士、社会福祉士実習受け入れ 2回/年 ②就職説明会に合わせて介護体験動画の作成 ③外国籍の人材等受け入れのための勉強会	①100% ②50% ③80%	①介護福祉士実習生2名、社会福祉士実習生1名を受け入れている。実習期間が感染症拡大時期と重なり、実習期間の調整、見直しを繰り返したが、実習を終了することができている。来年度も学校側と調整を図りながら、受け入れを継続して行う予定である。 ②就職説明会では事務局職員と協働し、介護職員が他法人の職員との座談会に参加する等新たな活動を増やすことができた。来年度は介護体験動画作成を検討している。 ③外国籍の人材受け入れについて、プロジェクトチームで年度を通じた検討を行い、来年度1名採用が決定している。来年度は、受け入れについての具体的な準備のためのミーティングを実施予定である。	相談員 介護支援 専門員 介護職員
利用者サービスの向上	① チームケアの充実を目指して、多職種による連携を強化する。	①第三者評価利用者調査の満足度80%以上 ②多職種が参加する各委員会を定期的に開催する	①80% ②80%	①第三者評価利用者調査の総合的評価 利用者調査(満足、大変満足合わせて)73.4%、家族調査(満足、大変満足合わせて)95.2%であった。 ②委員会活動は、定期的に開催しているが、感染症拡大時期は、一時中止、開催方法の変更(文書による)、フロア毎の開催等規模を縮小して行った。計画した研修、訓練も状況に応じて内容を変更する等実施している。	相談員 介護支援 専門員 介護職員
	② 新型コロナ感染症が5類に移行した後は、感染予防対策を行った上で、面会や地域交流が再開できるよう環境を整える。	①面会、ボランティア受け入れのための環境を整備する ②家族に日頃の様子を伝える1回/月	①50% ②100%	①面会は、感染症拡大時期は中止したが、制限を継続しながら実施している。居住スペースの面会は実施できていないが、面回数や面会人数増、屋外お散歩等もできるように変更している。ご家族には、引き続きご協力いただいている状況ではあるが、感染状況に応じたより柔軟な対応が必要となっている。ボランティアの受け入れはできていないが、委員会に自治会役員の方の参加、災害救援所訓練への参加等地域との交流が少しずつ増え始めている。②上井草通信1回/月発行し、概況報告を行った。面会時には、付き添い職員から家族に様子を伝えることを継続している。	相談員 介護支援 専門員 介護職員
	③ 生活の基本となる設備品を計画的に入れ替え、生活環境を整える。	①居室、浴室、トイレのドア、カーテンを修理更新 ②新たに導入する入浴設備による安全な入浴と業務負担の軽減 ③新たな介護ロボットの導入検討	①50% ②100% ③30%	①浴室、トイレのドアに不具合があり、プライバシーの保護が不十分であったが、取り換え工事が終了し改善している。居室トイレのカーテンが閉まりにくい箇所が複数あり、来年度取り換え工事を予定している。感染拡大時期には、工事予定の見直しをせざるを得ない状況であった。 ②新たに導入した機械浴槽は、湯につからず安全性が高い。シャワーによる温熱効果、洗浄効果も高いので、石鹸を極力使用しない入浴が実現でき、皮膚トラブルも減っている。職員の業務負担を減らした入浴が実現できている。 ③排泄センサー、見守りセンサー等導入を検討し試用もしているが、導入まで至っていない。来年度も介護ロボットの検討を継続する。	相談員 介護支援 専門員 介護職員 機能訓練 指導員
人材確保	① 資格未取得の職員は資格取得のための研修を受講する。	①初任者研修受講2人/年 ②認知症介護実践者研修受講2人/年 ③介護実務者研修2人/年 ④痰の吸引等の実施のための研修2人/年	①50% ②100% ③0% ④0%	①初任者研修は、新人職員1名受講修了している。 ②認知症介護実践者研修は、4名受講修了している。来年度は、さらに認知症介護リーダー研修受講を進めていく。 ③介護実践者研修は、受講者なし。介護福祉士資格試験の経験年数が達している介護職員には、資格取得の目標をもって受講を進めていく必要がある。④研修受講者の吸引等の実施のための研修は、痰の吸引を必要とする利用者が少ないため受講できなかった。	介護職員
	② 目標に基づき研修を受講し、サービスの向上、業務改善のために実践した報告会を行う。	①目標策定と計画的な研修受講2回/年 各委員会マニュアル動画作成2本/年 ②サービスの向上、業務改善のために実践した内容の研究報告会 1回/年	①50% ②100%	①目標策定とそれに基づく面接を実施している。リフトリーダー研修 感染症予防研修、HCR参加等の受講ができている。外部研修受講は、新たな取り組みや業務の見直し、ステップアップに繋がっている。委員会毎の指針、マニュアルの見直しを実施しているが、マニュアル動画に作成はできていない。 ②3月にサンフレンズ善福寺と研究発表会を実施している。「身体拘束・虐待防止委員会」「介護技術向上委員会」が年間通した活動の成果を発表することができている。来年度も実施予定とする。	全職員

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 地域の社会資源としての役割を果たしてできる限りの空床を減らす。結果、最大限の収入を確保する。	㊦-1特養稼働率平均93%以上(1日平均28床/30床以上) ㊦-2増床後の6床を6週間で満床にする。 ㊦SS3カ月の平均稼働率75%以上	㊦70% ㊦100%	㊦特養稼働率は4～1月まで93.0%だったが、2～3月は72.5%だった。工事は大きなトラブルなく終了し、2月から特養36床のスタートであったが、特養入所は2月2人、3月1件で増床6床の半分にとどまった。2月のリニューアルに向け事前訪問、準備等をする年末年始にかけて、コロナ感染症、インフルエンザ、再度コロナ感染症がクラスターとなり、体調不良者が多く出てしまったこと、その間、ショートステイの受入れを積極的に行ったが、入退所の多さ、慣れなさ(ショートステイの居室をユニットから全ユニットにした)等から、職員の疲弊もみられる状況だった。コロナ後も入居者の体調不良が続いており、逝去や長期入院者がいる。 ㊦工事の進捗を確認し、予定より早く、12月からショートステイを再開した。年末年始にかけての利用希望もあり、特養の空床利用もしたことから12月～3月の稼働率は104.8%と目標値を達成できた。 【今後の課題と対策】 ・空床から事前訪問、入所判定等を経て入居に至るまでの期間をどれだけ短くスムーズにできるか施設内の連携を密にすること。 ・ユニットの介助量や医療処置等により受入れ可否が決まってくるため、なるべく特養待機リストの人数を増やすための営業活動を継続する。 ・感染症は発生させないよう予防策を徹底し、発生した場合は速やかに収束するように注力していく。 ・ショートステイは新規利用者が多いことから、職員間の情報共有を十分にすること。	
	② 増床・大規模改修を滞りなく行ない、記録の電子化を軌道に乗せる。	㊦事故報がR4年度より減少する。	㊦90%	・工事の人手手配ができないという理由で1カ月遅延したものの、大きな苦情・事故がなく工事完了となった。事故報告書の件数としては、R4年度183件、R5年度168件とわずかに減少したものの大きな変化はなかった。また、同じような「要因・原因」で事故が繰り返されていることも見られた。記録の電子化(ケアカルテへの以降)は全職員が入力、閲覧ができるようになった。入力漏れや入力したデータの活用は今後の課題。 【今後の課題と対策】 ・記入漏れは各ユニットで担当者を決め、漏れチェックをし始めている。 ・事故報告書だけでなくどんなデータの集計や分析ができるのかを知り、活用できるようにすることで入居者の日々のケアに活かしていく。 ・介護はワンオペであり、事故の検証や対策が十分検討出来ないこともあるため、その日のうちに短時間でも振り返りができるよう多職種で対応していく。	
地域貢献	① 実習生の受入れを再開する	介護福祉士の実習生のみ受入れを実施する。	0%	門戸は開いていたが、介護福祉士の実習希望がなく受入れには至らなかった。工事終了後、社会福祉士の実習生を1名受け入れた。 【今後の課題と対策】 ・実習指導者は複数名在籍しているため、希望があれば受入れを継続していく。	
利用者サービスの質の向上	① 介護の質の標準化	㊦不適切ケア防止の取組み ㊦虐待防止研修の実施 ㊦移乗用リフトの定着	㊦100% ㊦100% ㊦100%	㊦「不適切ケア防止のための取組みについての自己評価」を年2回実施。ユニット別に前回のと比較集計をし、全職員に周知した。委員会では、改善した点や、引き続き注意が必要な点などを共有し、各ユニットに持ち帰ってもらったが、ワンオペ介護のため、職員がお互いに注意し合える環境下にはなく各自で律していく必要がある。 ㊦虐待防止委員会のメンバーが講師となり7月、11月、1月、2月の年4回の研修を実施した。事例を通して日々のケアを振り返るとともに、他のフロア、他のユニットのケアの様子を共有することができた。また「疲弊しきった現場では虐待が起こりやすくなってしまう」との意見もあり、施設全体で継続した取組みや組織作りが必要だと認識できた。初めて上井草園と合同の虐待防止委員会を実施し、お互いの施設の取組みについて理解を深めることができた。 ㊦移乗用リフトの点検を業務の中に取り入れ、全職員が必要時に移乗用リフトを使用できる状況になっている。リフトが原因による事故報告はなかった。 【今後の課題と対策】 ・各ユニット利用者が10名体制になったが、職員数は増えないことから、職員が疲弊することなくイキイキと仕事に取り組みるように業務全体を見直す必要がある。 ・似た内容を扱っている虐待防止委員会、身体拘束廃止委員会を合同開催とし、職員の理解や周知が深まるようにする。	
	② 日頃から感染症に備え、有事の際に対応できるよう準備を進める	㊦日常の感染対策の強化 ㊦BCPの周知、訓練の実施(年1回)	㊦㊦とも 80%	㊦開設後初めて感染症が発生した。コロナ感染症(2北)、インフルエンザ(1北)、コロナ感染症(1南、クラスター)と年末から年始にかけて、収束しそうなと別の発生源により感染症が発生するという状況が続いた。増床工事により、玄関に手洗いが設けられたため、職員が出動時にしっかり手洗いをすることは、以前よりも確実に実施できている。 ㊦災害用BCPの周知訓練では、駆け付け職員、役職者の自動参集などを改めて確認する機会となった。訓練では職員の安否確認訓練を実施した。災害時にはどれだけの職員が、いつ職場に出動できるかで、毎日の業務が変化するため、職員の安否確認は重要。普段から携帯アプリ(LINEワークス)を利用し、業務の緊急連絡を行なっているため、安否確認訓練の返信は思った以上の効果であった。 【今後の課題と対策】 ・入居者の生活と命を守る仕事であるとの自覚のもと、感染症や災害に備える。有事の際は普段から身につけていることしかできないため、繰り返し訓練の機会を増やす。	
	③ 修繕、増床工事期間、コロナ禍での日中の過ごし方への工夫	㊦ユニット単位でのイベント・行事を実施(各ユニット年3回) ㊦ご家族への発信(家族懇談会の開催:年1、HPの更新:毎月)	㊦㊦とも 100%	㊦工事中だったということもあり、なかなか盛大なイベントはできなかったものの、おやつレクでフットクリームを作ったり、メイクアップレクリエーション、手作り神社で初詣など、どうしたら入居者に楽しんでもらえるか、喜んでもらえるか職員で考え実施できた。 ㊦年度末に家族懇談会をZoomを使ってのリモートと対面の2回、同じ内容で実施した。対面開催では、新しいお部屋の内覧や、コロナ禍で入居されたご家族が入居後初めてユニットに入っていたなど、ご家族にとって有意義な家族懇談会となった。また、HPの更新は感染症等で更新できない月もあったが、ユニットごとに毎月持ち回りで作成し、入居者の普段の様子、工事の進捗などをなるべく写真を使うなどわかりやすくお伝えするように努めた。 【今後の課題と対策】 ・現状の職員体制でどのような日常的なレクリエーションができるか検討、実施していく。また、ご家族も参加しての行事が可能か検討する。 ・日々の生活の様子をブログ、Instagramを使って、発信を続ける。	
	④ 多職種によるチームケアの実践	多職種が参加する委員会を定期的に開催	100%	ケース会議、褥瘡予防委員会等多職種が連携、協同することができた。またケアカルテの導入により、不在時の状況確認等も以前よりスムーズにできるようになった。 【今後の課題と対策】 ・来年度は様々な委員会も多職種で参加し、課題を共有し、いろんな視点で検討できるようにしていく。	
人材確保	① 職員研修への参加	㊦内部研修の実施(毎月1回)	㊦100%	利用者の感染症だけでなく、職員の体調不良により勤務変更が多く、予定した月に予定した内容の研修ができず、開催時期をずらしたり、駆け込み実施する場面もあったが、予定した研修は職員みんなの頑張りでも実施することができた。介護保険法等により法律により義務付けられている研修だけでなく、自らの分量になるため負担に感じる部分もある。 【今後の課題と対策】 ・職場内研修は、今年度同様、法定研修を中心に実施する。 ・可能であれば、上井草園と合同開催する研修も検討してみる。	
		㊦外部研修への参加	㊦80%	初任者研修、認知症介護実践者研修、ユニッツリーダー研修、ケアマネ研修にそれぞれ参加することができた。 【今後の課題と対策】 ・全国老施協、東社協等が主催する研修の情報提供はしてきたが、職員への促しまではできていなかった。今後は受講してもらいたい職員に直接働きかけをし、研修参加を促してみる。	
	③ 就職活動で施設見学を希望される方への施設案内	㊦就職活動で施設見学を希望される方への施設案内 ㊦ホームページを毎月更新する	㊦100% ㊦90%	㊦事務局で就職希望者に施設見学の対応をしてくれており、サン善に来所時には最大限同席し、施設案内できるようにした。 ㊦2月以外は何かしらのブログを更新することができた。また、法人事務局の働きかけにより、新しくInstagramでの発信を開始できた。 【今後の課題と対策】 ・感染症が落ち着いた時期には、ユニット内まで施設見学してもらおうと、アットホームな雰囲気を知ってもらいたい。 ・ブログやInstagramの更新を継続し、行事ではなく、なにげない普段の様子を知ってもらう。	

計画			結果		
施設目標	施設の具体的な目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 安定した収入の確保	①登録27名を目指す ②近隣包括や居宅、病院等との連携強化	①98% ②70%	①12カ月平均登録26.5名。上半期に29名登録が続き、下半期に25名前後まで低下。営業活動や地域住民対象に出張説明会を実施。3月末時点で登録26名。施設入所待ちの連泊ご利用者が月平均2~3名受け入れが常態的に続いている。通いの人数も1日の上限の18名近くになる曜日もあり、訪問中心で支援していくケースも受けていきたい。訪問は月延べ回数は300回前後で推移。 ②ケア24上井草・善福寺は同法人ということもあり連携を密にしている。特に善福寺からの相談件数が多い。居宅、病院等からの紹介も定期的にあるが、連泊・通い連続利用などヘビーユーザー前提のケースの確率が高い。	①全職員 ②管理者、計画作成担当者
	② 法令順守した運営	ケアマネジメントに関わる書類の整備	50%	1月に杉並区の運営指導があり、ケアマネジメントの一連のプロセス(① インテーク② アセスメント③ ケアプラン④ ケアプランの実施・管理⑤ モニタリング・再アセスメント)について改善・指導があった。指導以降あらためて各プラン点検を実施。	管理者、計画作成担当者
地域貢献	① 他の小規模多機能施設、ケア24・居宅介護支援事業所・介護保険事業所・病院と連携を図ることで地域課題の発見と地域住民の支援を図る	①運営推進会議の開催(年6回) ②杉並区小規模多機能型居宅介護協議会定例会(年6回) ③地域ケア会議(年6回) ④地域で認知症ケアを考える	①100% ②100% ③33% ④50%	①年6回実施。参加者は上井草町会長・ケア24上井草職員・区役所職員・おあしす職員で実施した。 ②年6回実施。杉並区内の他小規模多機能事業所との情報交換は事業運営に大変役立っている。 ③井草圏域在宅医療地域ケア会議(年2回開催)に参加。地域の医療機関やケアマネジャーとの情報共有を行った。 ④認知症ケアに限ったことではないが、「杉並・ワーカーズまちの縁がわ上井草」「都営井草三丁目アパート」「都営上井草アパート」に出張説明会を行った際に地域に暮らす認知症高齢者の個別具体的なケースについてどのような支援が必要か意見交換をする機会を持った。	管理者、計画作成担当者
	② 福祉人材育成のために、社会福祉士等の資格取得を目指す実習生の受け入れをする。	実習生受け入れ(年3名程)	100%	大原学園3名、日本社会事業大学2名、白梅学園大学2名の受け入れを行った。 小多機での社会福祉士実習は生活相談員(社会福祉士)ではなく計画作成担当者(ケアマネジャー)の業務について主に学ぶことになるため、実習内容についてはソーシャルワーカーとしての視点を意識してもらえるような場の提供を心掛けた。1週目は多くのご利用者とはまず交流、2週目は支援計画を作成する対象となるご利用者の選定、3週目はアセスメントとプラン作成、4週目はプラン内容に基づいた支援を実施できるように実習を行って頂いた。	管理者、計画作成担当者
利用者サービスの質の向上	① 認知症ケアに関わる介護の質の標準化	①良いケアの共有 ②ケアプランに基づいたサービスの提供 ③職員研修	①70% ②50% ③0%	①介護記録はipadやPCを使用してご利用者ごとに細かく記録を記入しており、特記事項については抽出して翌日出勤時に全職員が目を通す習慣になっている。そのなかで課題となっているケースについても日々の実践の記録を各々が確認しながら軌道修正を行っていくことで早い段階でより良いケアに変化をしていくことができている。 ②計画作成担当者が介護職務をしているので現場でプランに基づいたサービスの提供を他職員とともに実践している。運営指導で指導があったアセスメントの小さな見直しについては課題として来年度に持ち越しとなっている。 ③認知症ケアに特化した研修は実施できなかった。	全職員
	② 日常の充実	①おやつ作り実施。 ②利用者様が望むプログラムの提供 ③季節を感じられるプログラムの提供	①50% ②50% ③50%	①新型コロナが5類に移行してからも高齢者施設としての感染症対応は変更していないため、ご利用者とともに行うおやつ作りの実施はしなかった。上井草結いの会から頂いた区民農園で獲れたさつまいもを蒸かしてスイーツをつくるなどの職員主体のおやつ作りは実施した。 ②③ご利用者が望むプログラムとしてコロナ禍でできなかった歌を唄ったり、ゲーム形式で体を動かすこと、外出行事が挙げられた。5類移行後は、感染症対策をしながらボランティアの受け入れも解禁して、コーラスグループを招いての歌唱、輪になってのレクリエーション、季節ごとのドライブ(紅葉・桜見物)を実施した。	全職員
	③ 感染症や災害が発生した場合に日頃から備え、業務が継続できる体制を強化する。	BCP(事業継続計画)を基にした研修・訓練の実施 2回/年	100%	上井草園と合同で年2回実施した。 10月には、地域の震災救援所立ち上げ訓練に参加し、福祉救援所として、要介護高齢者の受け入れと搬送を行う訓練を行った。サンフレンズ上井草としては機能訓練室を開放して、要介護高齢者と介護をする家族とともに場の提供と必要な物資の提供を行うとしているが実際に大規模災害が起こった場合に現場の介護サービスの提供をしながら避難者の対応ができるかは具体的にもう少し詰めていくことが必要と感じた。	全職員
人材確保	① 職員研修への参加	①外部研修への参加 ②内部研修の実施	①50% ②50%	①外部研修への参加は計画作成担当者研修(2名)参加。 ②内部研修は感染症対策と虐待防止のための研修を2回ずつオンラインで全職員に対して実施。	全職員
	③ 人事評価	人事評価を活用し、個々のスキルアップややりがいを見出す。	50%	半期ごとの人事評価面接において職員の声をあらためて個別に聞きながらそれぞれの目標達成に向けてサポートを行った。日々のなかでこまめに面接の機会が持てると思われた。	管理者

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 安定した収入の確保	①月平均21.5名の達成 ②加算の取得	①80% ②0%	① ・4月、12月～3月は目標を達成できず2月は17.6人と大幅な利用状況(体調不良者、コロナ感染症にてお休みする方が続出したこと)によるもの ・以外の月は目標以上の数値で達成。10月は最高の23、2名の平均利用者となる ・入浴の定員は固定していないため、登録者の状況をみながら介護と相談員で調整しながら受け入れ調整を行うことで利用率につながった ②加算についての情報収集もできず未達成	全職員
	② 法令順守した経営	①BCPの作成 ②地域共生型サービス事業の開始 ③高齢者虐待防止・感染症対策の指針に基づいた活動の実施	①100% ②100% ③100%	①事業継続計画完成。来期は計画書に即した防災訓練を行う ②9月より共生型サービス事業開始。2名の受け入れを行う。内1名は2月より共生型から介護保険に切り替わったため1名の受け入れを継続中。 ③虐待の芽チェックリストなどを活用し職場環境の見直し、知識を深める。換気・手洗いの重要性(標準予防策)の再共有。ノロウィルスの知識・処理方法の研修。処理キットの物品・設置場所の確認等を行った	全職員
地域貢献	① ボランティア、実習生等の受け入れ	①学生の受け入れ ②ボランティアセンターとの連携	①100% ②80%	①社会福祉士実習3名、中学生職場体験2名、介護等体験3名の受け入れを実施 ②夏のボランティア体験の受け入れ再開(中学生から社会人まで幅広い層の方が参加)	全職員
	② 地域の関係機関との協働	①家族介護者教室の実施(可能性を探る)	①0%	同建物の地域包括支援センターが活動している。和田ふれあいの家は別な形での地域との関わり方を来年度は検討していく	所長 生活相談員
利用者のサービス向上	① 「楽しみ」や「いきがい」の提供	利用者毎に満足できるサービス提供	①60%	・体操は意欲的に声を出したり身体を動かしたくなるような内容を取り入れ工夫し少しずつ形になっている。 ・写真展や季節の作品の展示会を企画 ・プログラム外の時間の過ごし方が課題となっている。一部のご利用者へはタオル干し・たたみ、メモ帳づくり、新聞紙の仕分けおよびプログラム活用するものを一緒に作る、展示する等の活動をやり始めた。来期は、さらに発展できるよう取り組みたい	全職員
	② 食事サービスの質の向上	①昼食の満足度向上 ②持ち帰り弁当利用率向上	①50% ②60%	①イベント時の外注食の提供を行う。定期的には実施することはできず計画性をもって行う必要があった。 ②営業・見学時にも持ち帰り弁当の反応は良好。大幅な利用率向上にはつながっていないがニーズあり。独居利用者の体調不良欠席時の配食(持ち帰り弁当利用者)でも安否確認ができケアマネジャーからも好評	全職員
人材確保	① 職員研修の実施	①定期的な内部研修の実施 ②認知症研修の参加 ③運転手の定期的な会議・研修の実施	①60% ②一% ③50%	①権利擁護、感染症研修、入浴研修、知的障害についての研修のみ実施。計画的に実施することができなかった ②未資格職員なしにより該当せず ③前期は毎月実施。後期は連絡ノートを活用しており未実施	全職員
	② 人事評価	①進捗状況の確認 ②最終評価と次年度の目標設定。	①100% ②100%	①4月に目標シートの確認及び助言。9月は進捗状況の確認の面接を実施。個々の目標確認を行いながら業務に取り組むことができています ②今年度の未達成事項及び来年度の目標設定について確認。課題を達成できなかった理由を振り返りながら自身の課題について取り組めるよう伝えた	所長

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 安定した収入の確保	①3月末時点を目標に、1日平均28.5名以上の受け入れを目指す。	①80%	2月末～3月中旬にかけてコロナ蔓延に伴う療養、自粛が目立ち、大幅に利用率を下げるものとなりました。4月には利用率も戻り、29名/日を超えるものとなりました。新しいプログラム等を取り入れ新規・曜日追加を目指すとともに、感染症予防と発生時の対応について適宜検討し、被害を最小限に抑えるよう取り組んでいきます。	全職員
	② 法令順守した経営の継続	①計画書類の整備	①80%	通所介護計画書、アセスメントシート等、大きな滞りなく作成できています。今後自己点検シート等を活用し、法令順守を怠らないよう努めます	全職員
地域貢献	① 配食サービス	①一日平均12名以上の受け入れを行う。	①100%	2024年3月実績が12.5食/日で達成しています。今後も広く周知していきます	全職員
	② 地域活動への参加と学生ボランティアの受け入れ、育成。	①近隣ボランティアの受け入れ。 ②介護者の会「ワイワイクラブ」の運営・関わり	①80% ②50%	①感染症発生時以外、趣味活動のボランティア、永福学園の生徒等、受け入れ出来ています。年度後半より「スケッター」を活用し、より多くの地域住民や学生等を受け入れ開始しました。 ②年度後半よりワイワイクラブ参加の再開しました。今後も事業所の持つ様々な役割を、地域にも開放していきます。	全職員 全職員
利用者サービスの質の向上	① 地域共生型サービスの実施	①上半期からの実施	①80%	指定を取り、受け入れできる状態となりました。年度後半に1件、見学・体験・カンファレンスまで行ったケースがありましたが、利用には至らなかったです。引き続き柔軟に対応していきます。	全職員
	② BCPを策定し定期的に避難訓練を実施し、利用者の安全確保に備える。	①防災訓練年2回の実施 ②大規模災害を想定したシステム整備。	①80% ②80%	①年2回実施、防犯の意識を高めました。 ②BCP完成しました。大規模災害を想定した訓練等を適宜行っていきます。	全職員
	③ サービスの質の向上に向けた組織的な仕組みづくり	①無駄をなくし、業務の効率化を図る ②入浴介助サービス1日12名以上。 ③サービスの質の向上	①60% ②100% ③50%	①全体のタイムテーブルと各シフトのマニュアル、事故報告書様式等を更新しています。非常勤職員の入れ替わりも多く、不安定な状況ですが、着実に仕組みづくりは進んでいます。 ②14名/日を上限とし、適宜調整することで達成できています。 ③利用者のケアの質の向上について、検討や学ぶ機会等が残念ながらほとんどありませんでした。毎朝のミーティング方法を変更し、多職種で共有・検討する機会を作りましたが、今後もその機会を増やしていく予定です。	全職員
人材確保	① 有給休暇取得率		①80%	有給取得希望者のほとんどが、希望通り取得出来ました。	全職員
	② 人事評価	①ステップアップシートを基に職員自らが自己評価し、所長と面談を行い、今後の課題と目標をたてる。 ②進捗状況の確認 ③最終評価と次年度の目標設定。	①50% ②50% ③50%	①年度途中で所長が変更したこともあり、継続した目標設定、課題の発見等が不十分であったと考えます。 ②③十分な振り返り、評価する時間が持てていませんでした。毎日の業務をこなすのに、精いっぱいであったと考えます。	全職員

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 安定した収入の確保	①7月までに1日平均28名以上の受け入れを行う。 ②入浴介助サービス1日12名	①71% ②100%	・7月までの平均利用率は26.9人となり70%の達成状況であるも、年度末では平均利用率27.1まで上昇している。上半期は人員体制が欠員状況の為、電話で報告含めた営業を中心に行いながら、時間があるときはパンフレットセットの配布等を行い新規利用者獲得に努めた。下半期も人員体制として欠員状況は2月まで継続、8月には人事異動で相談員の変更もあったが互いに利用率向上に対し協働し目標数値へ着実に近づいていった。 ・入浴サービスにおいても年間平均12.59人と目標数値を達成。新規利用の理由のひとつとして入浴ニーズが高く、定員が満員でもスポット入浴(お休みが生じたら繰り上がりでご案内)する形が利用率上昇の要因のひとつとなっている。	所長 相談員 介護職
	② 法令に順守した運営	①通所介護計画書・モニタリング・アセスメントの定期的更新	①70%	①通所介護計画書を計画的に作成するため年度途中から作成に関わる体制を見直し、年度末には作成ルーティンが構築でき順次作成していている。・再アセスメント・モニタリング作成において介護職で作成分担し、毎月14日前後で居宅介護支援事業所に報告ができています。	所長 相談員 介護職
地域貢献	① 地域活動への参加	①地域活動への参加 ②ゆうゆう館・にじのいるか保育園とのオンライン交流 お手紙交流	①90% ②50%	①毎月開催される地域ケア会議に管理者がほぼ毎回参加。松ノ木チームとして地域包括・ケアマネ・診療所・保育園等で地域ニーズの発掘や高齢者が住みやすい地域づくりを考え活動している。今年は「ほっ!タイム」として月2回地域のゆうゆう館や地域包括支援センターの一部を活用し「誰もが立ち寄れる場」づくりをしデイ部門として松ノ木ふれあいの家が参加した。その他、松ノ木小学校震災救援所運営連絡会には2回参加する。 ②コロナ感染状況が不安定では、あったが毎年交流をしていた「東洋幼稚園」との交流会を2日間実施。松ノ木小学校2年生の「町探検」・職場体験にて松ノ木中学校2名受入を実施。	所長 相談員 介護職
	② 地域住民との交流や地域への情報発信	①ボランティアとのリモートやズーム・DVDを通しての交流を図る。 ②地域への情報発信	①0% ②80%	①実施はなし ②定期的なブログ(行事や日頃の活動内容等)を11回更新。 松ノ木の駐車場掲示板にて毎月のプログラムやパンフレット一式・職員募集の掲示を行う。	所長 相談員 介護職
利用者サービスの質の向上	① 季節感を感じられるプログラムの提供。及び各フロアの有効活用方法を整える。	①年間行事8回以上 ②新たなプログラムや趣味活動の提案・実施	①100% ②%	①計画通り8回実施。常勤会議等で事前に内容の打ち合わせをし、他の職員へも担当職員から申し送りにて情報共有を行うことができた。 ②新たなプログラム・趣味活動の提案ではカラオケ機器の導入・麻雀曜日の増回・フラワーセラピー教室の導入で新しくチャレンジする活動の提案・選択肢を増やすことできた。	所長 相談員 介護職
	② BCPを策定し定期的に避難訓練を実施し、利用者の安全確保に構える。	①防災訓練2回の実施 ②大規模災害を想定したシステム整備。	①100% ②100%	①防災訓練2回実施。今回はご利用者を含めた訓練ではなく職員中心に訓練を実施。 来年度の課題として、ご利用者を含めた訓練ができるよう計画していく。 ②BCP計画を作成済。常勤会議にて研修を実施。	所長 相談員 介護職
人材確保	① 人事評価	①ステップアップシートを基に職員自らが自己評価し、所長と面談を行い、今後の課題と目標をたてる。 ②進捗状況の確認 ③最終評価と次年度の目標設定。	①70% ②100% ③100%	①②③各職員面談を実施。業務の振り返りや今後の目標を互いに考えることができた。習熟度の合わせ指導・育成していった。	所長 相談員 介護職
	② 有給休暇取得率	①計画的に有給休暇を取得していく。	①90%	・常勤職員は毎月1日程度計画的に有給取得ができた。また有給希望者は常勤・非常勤とも希望通り与えることができた。	所長 相談員 介護職

計画			結果		
施設目標	施設の具体的な目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
安定した経営	① 適正件数の達成	年間延べ90%達成と内容の適正化。	109.6%	【具体的な達成状況】○年間延 98.62% 1,929 / 1,956件 (標準1人35件/月40時間 事業所163件/月) おあしす移行5名 ○月平均:新規4.5人 終了3.1人 ○ケア24上井草圏域の新規困難ケースを迅速に対応。包括依頼35件/年(うち相談対応で終了10件、新規25件。重度化しご逝去や入院で短期間終了多い)。増加したのは家族依頼18件/年、他CM事業所12件/年。 ○加算:入院連携31回 退院連携10回 初回78回 通院7回 ターミナル0回。病院とスムーズな連携ができ利用者利益にもなる。看取りは対応も加算要件該当せず。 【今後の対策・次年度への課題】 ○目標90%(高齢職員多いため、予防は2件で1件へ移行していくため)、OCM不足と利用者増で担当件数が今後増えていくため、書類作成や事務作業短縮等の勉強会年1回実施する ○ケア24上井草圏域中心(短期で終結する困難ケースを受け入れのため) ○予防は委託 ○初回、入退院連携、ターミナルマネジメント加算等を法令を遵守し取得する。	全員
	② 特定事業所Ⅱにかかる適正運営の徹底。他部署との協働を図る。	①法令順守を常に心掛け、自己・他者点検を実施。 ②法人内外の事業所と連携・情報収集し、利用者ニーズの発信、共同検討。	①70% ②80%	【具体的な達成状況】①OR5.4~7月自己点検実施、個別に管理者点検・フォロー実施。 ○報酬改定、区の集団指導研修参加(3月)、運営規定・指針重要事項説明書の変更を所内共有(2.3月) ○公表制度開示入力(7月) ②利用者ニーズを、随時、地域の事業者、おあしす・上井草ss・善福寺ssへ発信。法人デイには3回/年発信。 【今後の対策・次年度への課題】 ①○自己点検継続。継続的な他者点検必要な為、主任CM2人でフォロー体制作り。 ○BCP(災害・感染症)、虐待・感染症対応は、年間計画通りに研修・訓練委員会を行う。 ②利用者ニーズを地域の事業所・法人内に発信し、共同検討していく。(随時)	全員
地域貢献	① ケア24・他住宅・介護保険事業所・病院と連携し、地域課題の発見とケアマネジメントの向上に繋げる。	①井草圏域地域ケア会議(年1回) ②主任CM会議(1か月1回) ③区・CM協議会(年3回) ④上井草地域ケア会議(年5回)	①100% ②100% ③100% ④80%	【具体的な達成状況】 井草地域における医療介護連携の担い手として他職種連携を図り、居宅介護支援の方向性を把握し日々の業務に役立てた。 ①2回 ②10回 ③15回 ④4回 ⑤事例検討会6月地域包括 7月KSS事例検討会 12月地域包括 【今後の対策・次年度への課題】 ○専門Ⅱ研修該当時に新規が重ならないよう配慮必要	全員
	② 地域住民との交流を図るとともに地域の方から信頼・選択される事業所を目指す。	地域高齢者への情報発信 BCP策定、杉並モデル利用支援	80%	【具体的な達成状況】 ①災害対応福祉救済所BCP訓練1回(11月井草中にて地域住民参加) (9月防災訓練は園内コロナの為机上にて) ②○9月震災時のためにたすけあいネットワークのお勧め、近隣居宅被災時の受け皿になる杉並モデル説明別紙1の情報更新 ○BCP研修全職員参加 2回 ○地域の介護サービス質の向上のため運営推進会議1回、リハビリテーション会議2回。 ○CM事業所閉鎖・離職によるCM交代の上井草地域の受け皿として対応。 【今後の対策・次年度への課題】 ①継続 ②○9月杉並モデル情報更新とたすけあいネットワーク情報提供の継続。 ○現場で使えるBCP更新のため 4月感染症 11月災害 BCP変更点確認研修、委員会、訓練実施。 ○運営推進会議、リハビリテーション会議参加 (年1~2回)	全員
利用者サービスの質の向上	① 基本の相談業務に加え医療ニーズ・多様化する困難ケースに対応する。	『自立支援』の立場に立ち看取り、独居、虐待、家族不在ケース等を地域包括、医療、後見人、生活保護ワーカー等と連携・協働を行う。	90%	【具体的な達成状況】 ①ケア24上井草 医療・生保ワーカー・後見人センター 区包括チーム・各事業所と協働し対応。(看取り・セルフネグレクト・ネグレクト・経済困窮者)②退院後や病状の変化に対応するため、入退院加算時はすぎなみガイドライン(全職員)、メディカルケアステーション(全職員)、バイタルリンク(2名)、電話やFAXや対面等使い分け随時医療との連携を図った。③朝ミーティングで困難ケースを取り上げ具体的なケアマネジメントの方法について検討。 【今後の対策・次年度への課題】 ①②③継続	全員
	② 制度理解・情報共有	主任ケアマネジャー1名含め総勢5名というCM数の規模を生かし、各CMが持つ知識、情報、経験を共有し、利用者サービスの向上に資する。(毎日の朝礼・週1回の特Ⅱ会議・研修参加)	90%	【具体的な達成状況】 ①毎朝のミーティング・特Ⅱ会議で他のCMの報告から自らの業務に生かせるよう職員一人一人の意見を出しあい、活発な情報及び意見の交換を行った。互いに行き詰まった時の相談ができた。②一人一台会社携帯で普段の相談や調整がスムーズに行う事ができ、緊急時連携と対応が図れた。24時間連絡体制維持。③専門職としての知識を習得の為研修参加し所内で伝達、共有ができた。 【今後の対策・次年度への課題】 ①②③継続	全員
人材確保	① 研修計画立案・実施、実習生受入体制作り	ケアマネジャーの育成と質の向上を目指す。	80%	【具体的な達成状況】 ①研修計画立案実施。上記の連絡会・研修以外に専門Ⅱ(1名)主任CM更新研修(1名)、主任CM研修(1名)修了者があたらに2月主CMとなった。 ③ケアマネジャー実習生1名受け入れ(2月)。 【今後の対策・次年度への課題】 ○法定研修、自己研鑽のため研修計画作成(3月)実施(通年)。○新しい職員が来た場合は受け入れ体制と引継ぎ準備が必要。	全員
	② 働きやすい職場作り	職員が共に支えあい、協力できる体制を作る。	80%	【具体的な達成状況】 ①急を要する利用者には担当を越えて支援。②安心して働くため、163人の利用者・複合施設に感染させないため、感染対策を実施。③利用者都合での勤務変更、職員の家庭・健康事情による時間有休が気軽に取れた。④悪天候時の交通費支給。 【今後の対策・次年度への課題】 ①~④継続 ○記録の時間短縮法等を所内で共有。得意な仕事と不得手な業務を交換する。	全員

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 実績収入の最大限の確保	①予防給付:150件/月 ②実態把握:690件/年 ③家族介護教室:4回/年 ④認定調査請負:1件/月	①81.3% ②99.7% ③100% ④100%	①いわゆる「自プラン戻り」の案件が増加してきているが、年間平均では122件/月となった。 ②件数確保のための「年度末ご様子伺い訪問」等は積極的には行わなかったが、相談対応→実態把握の通常の見直しにより最終的に688件となった。 ③介護保険を知る、口腔ケア、介護予防体操、高齢者住居の選び方の各テーマで行った。 ④月1件の請負を毎月こなすことができた。	①～③各職員 ④若林
	② 超過勤務の削減	月間超過時間5時間を目標に削減に努める。	0%	実質的な職員減の中で、特に在宅医療地域ケア会議や二層協議体への対応で超過勤務が多くなり、目標が達成できなかった。	各職員
地域貢献	① 地域における認知症への理解が進むよう住民や関連事業所との連携に取り組む	①認知症サポーター養成講座の開催 ②ステップアップ講座の開催 ③チームオレンジの推進	①100% ②100% ③50%	①通常開催に加え、柿ノ木図書館職員向け講座を開いた。小学校での開催は先方からの開催申し出がなく、実施しなかった。 ②たすけあいネットワーク地域連絡会の中で、行うことが出来た。 ③正式結成には至っていないが、チームオレンジ結成への議論と取り組みを推進した。また、地域の事業所を集めた地域ケア会議を行い、「業者オレンジ」の結成機運を高めた。	①若林・渡辺 ②渡辺 ③渡辺
	② 地域発信型介護予防事業	①すぎ西井戸端倶楽部(体操) ②出張相談会(区営集会所(年2回・その他4回))	①100% ②100%	①毎回の開催により、参加者の満足度を維持できた。また、参加事業者との定期ミーティングを重ね、より妥当な事業運営について検討を重ねた。 ②区営集会所から場所を変更し、ゆうゆう四宮館にて相談会を開催した。福祉用具事業者や体操サポーターの助力を得て、集客はできたが、実際の相談にはつながらなかった。	①尾栢 ②渡辺・若林
利用者サービスの向上	① 地域課題の把握	①在宅医療地域ケア会議(年3回) ②個別型地域ケア会議(年6回) ③第二層協議体(上井草 結いの会)	①100% ②83.3% ③100%	①リーダー医師や区担当者との話し合いにより、開催回数は2回となったが、二回とも行うことが出来た。 ②認知症に対する地域での支援を通年テーマにして行い、小規模多機能との連携やほかの個別ケース、業者オレンジ推進の芽となる地域ケア会議を行った。だが、開催回数目標は達成できなかった。また、開催担当職員が一人に偏ってしまった為、今後はより多くの職員が担えるようにしていく。 ③毎月の定例会や臨時会合、例年のイベントに加え、あらたなイベントへの取り組みを伴走支援することが出来た。協議体参加者の高齢化に伴う担い手確保が今後の課題となっている。	①尾栢・渡辺 ②若林 ③渡辺
	② ケア24活動の広報・周知	①ケア24上井草だよりの発行(4回/年) ②地域コム、法人HP活用	①100% ②0%	①発行回数は確保できた。ただ、町内会の回覧板に発行時期が間に合わないことがあり、スケジュール管理は今後も必須となる。 ②十分な活用が出来なかった。	①御園生 ②木村
	③ ①BCPをもとにした業務継続体制の確保 ②感染症、虐待各指針に基づく事業所運営によるコンプライアンスの維持	①BCP(事業継続計画)を基にした研修・訓練の実施 2回/年 ②虐待、感染症各委員会および研修実施 各2回/年	①50% ②100%	①井草中との福祉避難所立ち上げ訓練に参加した。 ②各指針に基づき、定期開催をすることが出来た。	①若林 ②若林・尾栢
人材確保	① 職員の育成・人事評価	①-1 日常業務のOJT ①-2 包括職員対象の外部研修(ケアマネジャー資格取得研修を含む) ②人事評価を活用し個々の目標とスキルアップを図る	①100% ②100%	①②職場内での「教えあい、学びあい」をモットーにして、職員各自の知識、スキルの向上を図ることが出来た。自主研修に取り組む職員もおり、今後もスキル向上を図っていく。	①②各職員

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 最大限の実績収入確保	①予防給付月185件(自主135件・委託50件) ②実態把握年690件 ③認定調査月6件 ④家族介護教室年4回	①100% ②100% ③100% ④100%	①予防給付 年間平均実績 自作154件 委託40.5件。委託は、介護認定結果の遅延、ケアマネジャー不足の影響を受け件数増は望めなかった。 ②774件 実施。前年度よりも約70件ほど増。 ③月平均 7件。要介護認定期間延長の特別措置が終了したことに伴い、区所管課からの調査依頼件数が増加し、可能な限り対応した。 ④規定の回数を達成。認知症テーマの回では、チームオレンジ善の参画・協力を得て実施した。	①～③ 全員 ④渡邊・比毛・日置
	② BCP(災害・感染症)に基づいた研修と訓練の定期実施	研修(計画更新時)と訓練(年1回)を計画的に行う	100%	計画に基づき研修(計画の読み合わせ)と訓練(参集・バイタルリンク)を7月に実施。実際の災害時は、包括に期待される役割として、相談・情報収集・安否確認などが課題となることが想定されるため、引き続き研修や各会議体で、情報交換・横の連携づくりについて検討する	奥山・渡邊
	③ 超過勤務およびコスト削減	毎月の超過勤務を1名につき2時間以内に抑える。電気代をはじめとしたコストカットの推進	100%	実績:事業所全体平均 月1.83時間。 事業所内の電球を一部LEDに交換(管理会社負担)できたことで、少しではあるがコストカットにつながった	全員
	④ 高齢者虐待防止・感染症対策指針に基づく委員会・研修	指針に基づく研修と委員会を実施	100%	高齢者虐待防止 委員会(5/12 11/28) 研修(5/12事例検討 11/28従事者虐待について通報やフォローの確認) 感染症対策 委員会(6/12 9/26 12/21 3/22) 研修(6/12感染症の基礎知識 12/21 バイタルサイン) 計画に基づき、定期的実施できた	奥山・渡邊・比毛
地域貢献	① 地域発信型介護予防事業(地域の居場所とつながる)	①善福寺サロン ②地域で安心サロン ③けやきの見える家 ④Mカフェにしおぎ ⑤善福寺はつらつ道場 ⑥オープンサロンDay ⑦サロンマップ情報更新(ケアたより)	①100% ②90% ③100% ④100% ⑤100% ⑥100% ⑦100%	①コロナの5類移行にともない、サロン内での飲食を10月から再開。東京女子大学の学生・朗読ボランティアの参加も得て、コロナ前の賑やかさを取り戻している。②～④各サロンへは可能な限り毎月、各職員が顔を出し相談対応だけでなく、地域課題の把握やケア24のPRなどに努めた。⑤今年度は年5回で開催。杉並リハビリテーション病院、ゆうゆう善福寺館、わが町一番体操スタッフと共同で実施。そのうちの1回については、ケア24が講師役となり、地域デビュー(社会参加)の回として、地域の集いの場、体操グループなどを参加者にプレゼンすることができた。⑥「西荻・善福寺オープンサロンDay」として西荻区民センターまつり2024にブースを出展。サロン紹介のパネルを作成し、圏域内のサロン同士のつながりと、住民への案内、周知を進めた。	①野口・戸井田・比毛 ②全員 ③木村・全員 ④全員 ⑤木村・渡邊・奥山 ⑥野口・木村 ⑦木村・比毛
	② 認知症理解への取り組み	①認知症サポーター養成講座開催(年1回) ②講座修了者のステップアップ講座開催(年2回) ③地域の関係機関と講座開催	①100% ②100% ③100%	①東京女子大学の学生向けと、一般区民向けの合計2回開催。職員4名がキャラバンメイトの資格保有。 ②ステップアップ講座は認知症介護研究センターの永田氏の協力を得て、チームオレンジメンバーに対し合計2回実施。 ③視覚障害支援センター「チャレンジ」への出張講座・東京衛生病院外来看護士向け、勉強会を開催できた。	①～③ 木村・野口・渡邊・奥山
	③ 地域住民への啓発活動 地域の担い手発掘	①地域の小中学校への啓発授業 ②たすけあいネット地域連絡会毎月開催	①0% ②100%	①コロナ禍の影響から各種の啓発活動は学校側が自粛。②年10回開催した。地域で高齢者を見守っている協力機関や個人商店などをMAP化した「たすけあいMAP」を改訂。あんしん協力員と東京女子大学の学生とが一緒になって、MAPを掲載先に配布する活動を今年もおこなった。	①全員 ②比毛・木村
利用者サービスの質の向上	② 地域ニーズ・地域課題の把握	①ちよこつとご近“助”会(毎月) ②在宅医療地域ケア会議開催 ③個別ケース検討型地域ケア会議開催(年6回) ④地域ケア推進会議(年1回) ⑤ケアマネ連絡会(年4回)	①100% ②100% ③100% ④100% ⑤100%	①推進員が中心となりコアメンバーでの運営会議に参加。「地域の防災」「認知症」をテーマに今年も活動を展開。2層協議体である「ご近助会」をPRするため広報誌を年2回発行。来年度は、若年性認知症がテーマの映画「オレンジランプ」の上映会を企画。②合計で年2回開催。テーマ「地域でつながる入退院支援」「医療保険と介護保険の狭間のケース支援」。運営メンバーでの定例会議が、日頃の地域間連携においても好影響を及ぼしている。③④計画に基づきそれぞれ目標通り実施できた。地域の社会資源、行政と町会、民生委員など地域にかかわる人達と課題を検討でき、ネットワークが深まっている。⑤情報共有をメインに年4回実施できた。	①木村・奥山 ②木村・渡邊・奥山 ③野口・奥山 ④野口・木村・奥山 ⑤野口・日置・奥山
	③ ケア24活動の広報・周知	①ケア24善福寺だよりの発行(4回/年) ②地域コム、法人HP活用(毎月更新)	①100% ②100%	①計画通り発行した。紙面の内容にも工夫が少しづつ加わり、担当職員のスキルも向上してきている。 ②法人HPのブログは毎月必ず掲載することができた。ブログを見てくださる方からの反応や求職者からも好評を得ることができた。今後も①②ともに内容の充実を図っていく。	①比毛・木村・渡邊 ②比毛・奥山
人材確保	① 必置三職種の確保・定着	①求人活動の継続 ②職域関連研修参加 ③ステップアップシートを活用したOJT実施。 ④主任介護支援専門員・介護支援専門員の増員育成	①100% ②100% ③100% ④100%	①年度を通じて必置職員の配置を継続できた。退職・離職者はゼロ。人員体制としては安定して運営できた1年だった。②年間研修計画に基づき計画的に実施できた。③年度当初、半期、年度末の3回、人事評価とステップアップシートを用いて、個人の目標と進捗状況を確認。月2回のミーティングと毎力行われる報告時に担当ケースの共有と、三職種での検討を進めた。④常勤職員1名が、主任介護支援専門員の新規研修を受講。令和6年度からは新たに主任介護支援専門員として配置登録となる。また、常勤(保健師)1名も、介護支援専門員の試験に合格。それぞれ相談支援のスキルアップにつなげられるよう資格取得や研修受講を所を挙げてサポートする。	①事務局・奥山 ②～③所員全員 ④担当職員・奥山

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 実績収入の最大限の確保	①予防給付:200件/月 (ケア:120件 委託80件) ②実態把握:690件/年 ③家族介護教室:4回/年	①93.5% ②100% ③100%	①2400件/年の目標に対し2237件の給付実績。自プラン平均:109件 委託平均:77件 中途採用2名、異動(転出)1名の中、目標値に対して9割の実績を確保した。 ②716件訪問。目標達成するも、職員毎のアウトリーチに対する意識や計画性に温度差が見られた。次年度、同加算が無くなるが、各職員の訪問意識を維持したい。 ③「こころの病氣」「施設の選び方」「高齢期の口腔機能維持」「尿漏れ対策」をテーマに目標回数達成。	①②③ 全職員
地域貢献	① 地域住民との繋がり・担い手の把握	①ユサハ和田・高円寺(二層協議体) ②たすけあい地域連絡会	①100% ②100%	①町会、民生委員及び和田圏域の医療福祉関係計16団体と、隔月で二層協議体を開催し、地域課題や住民への還元を中心に話し合いを進めた。最終的に参画団体の周知を目的とした、資源MAPを作成し、地域に配布。 ②計画どおり開催。地元スーパ―やあんしん協力員と民生委員の情報交換の場を設け、相互理解や見守りの在り方を考える機会となる。	①村田、中村充 ②中村陽、村田
	② 地域発信型介護予防事業	①えぶろんの会 ②高円5丁目会館体操教室 ③都営一丁目住宅/コトシヤハイム健康相談会 ④みま～も杉並気づきのネットワーク	①100% ②100% ③30% ④100%	①開催月は毎回、全職員が交代で、ケア24和田の周知活動を行った。 ②RehaLaboスポーツと共同し、高円寺南の高齢者に対する、介護予防と制度や区事業を周知する機会を定期的に提供できた。 ③コトシヤハイムと和田1丁目住民に向けた健康セミナーを開催。都営一丁目住宅に向けた取り組みは進まなかった。 ④任意事業として東ブロック包括5所と協賛団体との活動を継続。定例のセミナー参画の他、③に挙げた健康セミナーは、みま～も出張講座として佼成病院と共同し、住民が地域医療を身近に感じるきっかけづくりを行った。	①全職員 ②村田 ③村田、中野 ④中村充、村田
	③ 認知症理解へ向けた取り組み	①認知症サポーター養成講座 ②認知症修了者ステップアップ講座 ③チームオレンジ(笑和)開催 ④物忘れ相談、認知症初期集中支援事業活用	①100% ②100% ③100% ④100%	①月毎に割り当てられた地域住民向けの養成講座の他、和田圏域の杉十小、杉三小の生徒を対象とした養成講座を開催した。 ②ケア24成田、松ノ木と協働しステップアップ講座開催を開催した。 ③住民の認知症理解を高め見守りの目を増やす目的の基、認知症理解を目的としたチラシを作成し地域に掲示した。若年性認知症の集いに参加し世代による認知症観の違いや特性の把握に務めた。年度後半は、認知症の方が集える居場所や当事者参加について検討中。 ④物忘れ相談:2件 認知症初期集中事業:4件 概ね目標設定どおりに繋げる事ができた。	①②村田、中村陽、中野 ③中野、村田 ④村田、中村陽
利用者サービスの向上	① 地域課題の把握	①在宅医療地域ケア会議 ②ケア24和田圏域ケアマネ連絡会 ③高円寺圏域主任ケアマネ連絡会 ④孤立する住民へのアプローチ ⑤地域ケア個別会議 ⑥地域ケア推進会議	①100% ②100% ③100% ④100% ⑤100% ⑥100%	①推進員を中心として「バイタルリンク」をテーマに年2回開催 ②圏域や予防委託ケアマネを対象に年4回開催。「ごみ問題」「認知症」「介護者による介入拒否」をテーマとした事例検討の他、定期巡回サービス提供事業所を講師とした講義を行った。小規模故に発言し易いとの評価を得た。 ③高円寺圏域主任ケアマネと共に、連絡会の企画を経て開催。福祉事務所職員を講師に招き、生活保護受給から開始の流れと情報共有のポイントなど、連携手法について検討した。 ④医療や介護、親族住民と接点のない高齢者に対しては、和田独自のリスト対象(イエローリスト)として、定期的な状況確認に努めた。 ⑤⑥個別会議:6回 推進会議:1回開催 両会議共に、個別課題の解決や参加者間の役割分担など、満足度の高い内容であった。開催準備期間に余裕がない会議もあったため、次年度は、計画的な企画が必要。	①村田+中村充、中村陽 ②近藤、中村充 ③中村充 ④全職員 ⑤⑥中村(充)、村田
	② ケア24活動の広報・周知	①和田だより発行(4回+臨時号) ②法人HPアップ ③地域活動・町会・民生委員協議会等へのケア24活動周知 ④地域資源の集約・更新	①100% ②0% ③100% ④100%	①年4回の広報誌を発行 ②法人HPの掲載が進まなかった。次年度は、定期的な掲載を意識して取組みたい。 ③職員間で分担し、和田町会連及び民生員協議会、医療機関その他地域拠点に持参した。職員の顔を覚えて貰う機会ともなり、年間通じて周知活動を継続する事ができた。 ④ケア24和田事業所内の地域始原MAPとリストを適宜更新し、来所相談や申請手続きの際に活用した。	①中村陽、中野 ②中村充 ③全職員 ④全職員→村田集約
	③ 災害時及び感染予防に対する事業所体制の確立	①災害時の行動指針確立 ②緊急時対応者のリストアップ ③避難訓練実施 ④感染予防・まん延防止策	①100% ②50% ③100% ④100%	①④令和5年度中に業務継続計画の概要(素案)をまとめた。次年度は、運営体制に応じた体制の見直しや、委員会の開催によって適宜リニューアルを行っていく。 ②上記イエローリスト対象者の安否確認は定期的に行っていたが、10名程度の絞り込みや安否確認の行動指針の策定まで至らなかった。 ③和田ふれあいの家、和田みどりの里と協働し年2回の避難訓練実施。	①④中村、中野 ②③全職員
人材確保	① 職員育成・定着	①包括業務OJT実施 ②③所内研修・Off-JTを研修計画に基づき受講し個々のスキルアップを図る	①100% ②100% ③100%	①新入職員を中心に包括業務に必要な研修を優先的に受講した。包括担当業務に応じた ②3職員の所内研修及び法人主催の事例検討会に参加。 ③外部研修は職員個々に指定の他、全職員が研修受講の機会を万遍なく持つため、研修情報は所内で回覧した。	①②全職員 ③中村充

2023年度事業報告

施設名: 和田みどりの里

作成責任者: 所長 中島千恵

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 和田拠点(和田ふれあいの家・和田みどりの里・ケア24和田)が丸となって円滑な経営を進める。	適正な人員配置	90%	・職員は非常勤4名体制。1日2名体制を予定していたが、金曜日の午後のみ調整がつかず1.5人体制となった ・身体状況の変化が見受けられる居住者については相談員に報告するとともに、ケア24和田へも情報提供を行い必要なサポートが必要な時に受けられよう支援した	所長 生活協力員
	③ みどりの里の業務内容の再確認、区との連携及び必要な支援を行う。	新規居住者のスムーズな受け入れ	100%	・サービス付き高齢者住宅を廃止し47室すべて高齢者住宅和田みどりの里となる。空き室も多く、新規受け入れに必要な書類の整備、近隣マップの作成し配布した。 ・3月末で44/47室の居住者となる。	所長 生活協力員
地域貢献	① 居住者のニーズを把握し協力できることの支援を行う	① 定例会の企画・開催	① 100%	・区のフレイル予防講座4回実施 ・6月よりみどりの里居住者の交流会の再開(毎週火曜日)4~6名の方が毎回参加 ・職員ミーティングを毎月開催し居住者状況の報告及び確認事項の共有を行った	所長 生活協力員
利用者のサ向上サービスの	① 緊急時や災害発生時の体制整備、設備管理と操作の知識と居住者の安全確保等の技能を習得する。	・避難訓練の実施 ・非常通報の対応 ・斉放送の環境整備	%	・建物設備について研修を行い24時間センサーの仕組みについての知識を得る ・10月、3月に合同防災訓練実施 ・3月はコロナ感染症予防のため中止していた避難訓練を再開し実施。正面玄関に避難し点呼確認及び居住者の安否確認を行った居住者同士、顔輪合わせることがないため良い機会となる	所長 生活協力員
人材確保	① 離職防止	① 職場の透明化 ② 有給休暇の取得	① 80% ② 100%	① 今年度よりサービス付き高齢者住宅が廃止となり和田みどりの里の生活協力員としての業務となる。職員体制も大きく変わり、新たに非常勤3名雇用。4名体制で開始する。全員が70歳以上の職員。内1名が3月末で退職者1名 ② 希望通りの有給を消化できている	所長 生活協力員

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 拠点(和泉ふれあいの家)で協力して事業を運営する。	適正な人員配置	100%	・職員は生活支援員1名。土日は警備会社が対応(緊急通報システム発報時) ・午前中10:00~12:00 相談業務 ・日頃よりコミュニケーションを取り、運営を図る	所長 生活支援員
	③ みどりの里生活協力員事業の委託契約内容の順守、区との連携及び必要な支援を行う。		90%	今後も見守り等のサービス提供を含め、必要に応じて介護サービス導入に当たり、関係機関、ご親族とのコミュニケーションをとっていき、よりよい生活支援を行う	生活支援員
地域貢献	① 居住者のニーズを把握し協力できることの支援を行う	定例会の企画・開催	90%	・月1回の定例会において、フレイル予防を2回実施(2023年12月、2024年1月)し、8名参加 今後も7月~11月でフレイル予防講座申し込み済み。 新入居の方のご紹介、顔合わせ(4月開催)	生活支援員
利用者のサービス向上	① 緊急時や災害発生時の体制整備、設備管理と操作の知識と居住者の安全確保等の技能を習得する。	・避難訓練の実施 ・非常通報の対応 ・一斉放送の環境整備	50%	・2023年3月ふれあいの家防災訓練に生活支援員のみ参加 ・2023年9月ふれあいの家所長、建物オーナーと防災訓練の打ち合わせ実施。消火器等の把握、共有。コロナの為、居住者は参加せず。 ・今後は一斉放送の技能・訓練、避難誘導の指示など、実施予定	所長 生活支援員
人材確保					

計画			結果		
施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率(%) ※指標ごとに記入する	具体的な達成状況と今後の対策	担当者
健全経営	① 規則・規定類の整備	必要に応じた規程の改廃・策定	100%	【年度内改廃規程】文書規程・給与規程・組織規程・各事業所運営規程 外部理事の助力を得て、労務環境の課題を洗い出す「給与・採用MT」を延べ14回実施し、タイムリーな規程改定につなげた。	人事・経理・総務
	② 決裁実務の合理化	ワークフローの実用化	25%	ファイル共有までしか進めていない。次年度へ持ち越しとなる。	人事・経理・総務
	③ コスト増に対するの対応	各種取引の見直し	100%	光熱費業者見直し(半期毎)→料金が上がらなかったため、契約継続。 委託業者見直し(年度1回11月)→清掃業務委託を終了し直接雇用にて切り替えた。 購買方法の見直し(随時)→事務消耗品の注文先を変更した。	総務・経理
	④ 収支の見える化	予算規律の浸透	100%	月次予算対比を共有した。概算要求を浸透させて修繕費及び設備更新費用等の見直しをたてた。 期間内補正予算1回。財政調整積立金は善福寺改修費用として適切に取り崩した。	次年度予算反映 経理・事務局長
	⑤ 事業の競争力向上	サンフレンズ善福寺増築・大規模改修工事着工	90%	工事は期間は1か月押し・費用も若干の予算超過となったが、当期資金収支の枠内で完成した。補助金も計画通り受給した。	事務局長・総務 引渡し 補助金実績報告
デイサービスの競争力向上		90%	松ノ木の2単位運営は下半期に人員体制が安定し、課題を残しつつも昨年比実績増。3所とも共生型指定を完了した。	事務局長	
貢地献域	① コロナ収束後の施設開放のあり方を定める。	地域における公益的な取組を実施する	50%	コロナ5類後のガイドラインを作成。実習生・ボランティア受け入れ再開。会議室貸出再開。 介護職員初任者研修地域開放はならず。秋コースは中止となった。	事務局長・人事
利用者のサービス向上	① サービス提供環境の改善	上井草園及びサンフレンズ善福寺の設備更新	90%	上井草園 下半期より空調・電球の更新工事が着工された。 善福寺 上記増床・大規模改修計画による。	事務局長・総務
	② 第三者評価の定期実施	特養は毎年、他は3年に1回	100%	特養は予定通り評価受審した。	経理
	③ 災害時・感染時のBCP稼働	訓練・作成支援	100%	全事業所でBCP作成完了。上井草園は地域と連携して福祉救援所立ち上げ訓練を実施した。	事務局長・総務
人材確保	① 職員採用と離職防止対策	①法人広報管理・社内報発行 ②退職者数に見合った内定者数の確保 ③中途採用は新卒学生内定者数不足人数分(10月の時点で募集人数を確定する) ④実習生依頼校を中心に大学・専門学校への訪問 ⑤研修計画に沿った職員の研修派遣管理 ⑥同期入職者交流会の実施 ⑦介護職員初任者研修の地域開放 ⑧認知症介護基礎研修受講支援を開始。 ⑨近い将来、介護職員実務者研修を開催するための申請準備	①100% ②100% ③100% ④100% ⑤75% ⑥50% ⑦50% ⑧100% ⑨0%	①ホームページ上でのPR動画の積極活用・社内報定期発行(3カ月に1回)	総務
				②・③採用目標人数に達するまで特養職員と協力しての就職説明会実施。就職フェア参加。採用面接即時化。新卒4名中途13名の採用につなげた。 ④8校延べ13回の訪問活動実施。新卒学生2名の採用面接紹介・2名の職場体験紹介・1名の採用内定者紹介を得た。 介護職員奨学金返済育成支援事業・介護職員宿舍借り上げ支援事業の活用は予定通り実施した。 ⑤年間研修計画に沿って職員を研修に派遣。研修派遣は事業所任せの一面もあるため、法人としての研修計画の再構築の必要性あり。 ⑥同期交流会の実施はせず。別の取組として、キャリア面談を実施し、職員の考えをヒアリング。次年度も継続する。 ⑦介護職員初任者研修は春コースの実施にとどまった。地域開放はできていない。今後の課題。 ⑧新入職員の対象者に対し、認知症介護基礎研修(eラーニング)の受講を数度に渡り管理者に周知。 ⑨実務者研修の取り組みについては未着手。	
	② ステップアップ制度の運用	①等級昇格の審査の実施 ②評価者のブラッシュアップ ③個人目標の質の向上 ④非常勤職員評価制度	100%	年度スケジュールに沿って滞りなく実施した。2月に評価者対象の面談スキル研修を実施した。役職者用のステップアップシートの作成に課題が残るため、次年度以降検討していく。	人事・事務局長

IV 理事会・評議員会の開催状況 2023年度

法人の重要事項、法人が運営する事業の重要事項を審議するため、次のとおり理事会、評議員会を開催しました。

1. 理事会 理事7名 監事2名

区分	開催日 (決議とみなされた日)	方法	理事 出席数	監事 出席数	付議事項、報告事項
1回	5月1日	文書審議	6	2	議案第1号 和泉ふれあいの家運営規程の改正について
2回	6月7日	対面	6	2	議案第1号 2022年度事業報告について 議案第2号 2022年度決算について(監事監査報告)【6月評議員会議決事項】 議案第3号 役員の選任について(理事・監事)【6月評議員会議決事項】 議案第4号 夏季賞与の支給について 議案第5号 評議員会の招集及び議題について 議案第6号 給与規程、非常勤就業規則の改正について[基本給調整手当・通勤手当変更] 議案第7号 自動二輪車通勤規程の策定、自家用車通勤規程の改正について 議案第8号 育児・介護休業等に関する規則の改正について[30分単位取得可] 報告第1号 特定処遇改善およびペーシング加算実績精算時の配分について 報告第2号 理事長及び常務理事の職務執行状況について
3回	6月28日	対面	6	2	議案第1号 理事長の選任について 議案第2号 相談役の選任について 議案第3号 役員等報酬規程の改正について[評議員会議決事項] 議案第4号 和泉ふれあいの家運営規程の改正について
4回	9月20日	対面	6	2	議案第1号 文書規程の改正について 議案第2号 就業規則の改正について 議案第3号 管理職の配置、組織図の改正、組織規程の改正について 議案第4号 新役員候補者の承認について(理事)[評議員会議決事項] 議案第5号 非常勤職員賞与の支給について【当日配付】 議案第6号 非常勤職員賃金表の改正について 議案第7号 第3回 評議員会の決議の省略について 提案書、同意書 報告第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について 報告第2号 サンフレンズ善福寺 不審火について 報告第3号 上井草園新型コロナウイルス感染者拡大について
5回	12月6日	対面	6	2	議案第1号 上期実績報告と第一次補正予算について 議案第2号 冬季常勤賞与の支給について 議案第3号 賞与規程の改正について 議案第4号 給与規程の改正について 議案第5号 サンフレンズ善福寺・松ノ木ふれあいの家の運営規程の改正について 議案第6号 1000万円以上の委託業務の契約更新について
6回	1月10日	文書審議	7	2	議案第1号 上井草園とサンフレンズ善福寺の運営規程の改正について
7回	3月18日	対面	6	1	議案第1号 2024年度 役員賠償責任保険の契約について 議案第2号 2024年度事業計画(案)について 議案第3号 2024年度予算(案)について 議案第4号 組織管理規程(組織図)の改正について 議案第5号 各事業所の管理職(所長)の配置について 議案第6号 運営規程の改正について[居宅、通所、地域包括] 議案第7号 給与規程の改正について[60歳以上の給与、55歳以上の昇給、役職手当、道のり、相談員手当] 議案第8号 非常勤就業規則の改正について[賃金表] 議案第9号 非常勤職員 賞与支給について 議案第10号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について 報告第1号 オンブズマンの選任の同意について 報告第2号 2023年度人材施策報告について 報告第3号 副業の許可について 報告第4号 理事長及び常務理事の職務執行状況について(2023.12～)

2. 評議員会 評議員7名

区分	開催日	方法	評議員 出席数	監事 出席数	付議事項、報告事項
1回	4月20日	文書審議	7	2	議案第1号 定款の改正について
2回	6月28日	対面	4	2	議案第1号 2022年度決算について(監事監査報告) 議案第2号 役員の選任について(理事・監事) 報告第1号 2022年度事業報告について
3回	10月6日	文書審議	7	2	議案第1号 役員候補者の承認について(理事) 議案第2号 役員等報酬規程の改正について

V 職員に関すること

1 職員研修

2023年度の職員研修は、「一般職員経年研修」、「法人全体研修」、「階層別研修」、「職種別研修」、「初任者研修」に分類し、計画しました。

計画に基づいて実施した内容は以下の通りです。

(*は非常勤職員も受講)

(1) 一般職員経年研修

研修名	対象	受講者数	実施月	実施主体
w新入職員研修	2023年4月常勤職員採用者	9人	4月	法人事務局

(2) 法人全体研修

研修名	受講者数	実施月	実施主体
「認知症の人の心の声を聴いてみましょう」	8人	7月	法人事務局
ステップアップ面談を学ぶ ～メンバーの成長を支援していこう～	13人	2月	法人事務局

(3) 階層別研修

① 主任

研修名	受講者数	実施月	実施主体
該当なし			

② 係長

研修名	受講者数	実施月	実施主体
防火・防災管理講習	1人	8月	東京消防庁
w2024年度介護保険制度改正・介護報酬改定最新動 向と通所介護が向き合うべき課題と対応策	1人	10月	株式会社Rehab of JAPAN
W 杉並区管理者向け研修 人材不足を補う業務効率化 と組織マネジメント	1人	10月	杉並区介護保険課
社会福祉施設を対象とする労働災害防止講習会	1人	10月	新宿労働基準監督署
ポイント解説 処遇改善セミナー	1人	2月	介護労働安定セミナー

③ 管理職

研修名	受講者数	実施月	実施主体
令和5年度 社会福祉法人会計入門研修	1人	7月・9月	東京都福祉人材センター研修室
w人材不足を補う業務の効率化と組織マネジメント	1人	10月	杉並区介護保険課 管理者研修
第3回採用担当者研修・情報交換会	1人	3月	東京都社会福祉協議会

④ 理事・監事・評議員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
該当なし			

(4) 職種別研修

① 介護職員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
東京ケアリーダーズと学ぶ「よりリアル」 第1回～虐待防止について～	2人	5月	東京都社会福祉協議会
介護専門員更新研修専門1	1人	6月・7月	東京都社会福祉協議会
東京ケアリーダーズ主催介護技術研修会 【第2回】認知症ケアについて①	1人	7月	東京都福祉保健財団他
w利用者中心の看取りケア 穏やかに自然な最後とは	1人	9月	杉並区
高齢者福祉実践・研究大会 「アクティブ福祉 in 東京 '23」	2人	9月	アクティブ福祉 in 東京実行委員会
白梅介護福祉セミナー2023 多様なニーズの最先端のケア&卒業生交流会	1人	10月	白梅学園大学
東京ケアリーダーズ主催介護技術研修会(テーマ:ボディメカニクスについて)	1人	11月	東京都社会福祉協議会
福祉用具サービス業務従事者講習会	1人	11月	東京都福祉保健財団
令和5年度介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修「高齢者虐待防止研修(施設居住系サービス)」	1人	11月	東京都福祉保健財団
w(在宅)虐待・身体拘束防止研修	*11人	11月・12月	小規模多機能ホームおあしす上井草
w広尾病院オンラインセミナー	*11人	12月	小規模多機能ホームおあしす上井草
東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	1人	10月・1月	公益財団法人総合健康推進財団
感染症講習	*1人	12月	特別養護老人ホーム上井草園
看取りケアと個人史	4人	12月	ターミナル委員会
w介護支援専門員実務研修	1人	12月・3月	東京都福祉保健財団
w東京都認知症介護実践者研修	1人	1月	東京都社会福祉協議会
w(在宅)虐待・身体拘束防止研修	*9人	2月	小規模多機能ホームおあしす上井草
w東京都感染拡大予防研修動画 基礎編(1)	*10人	3月	小規模多機能ホームおあしす上井草
w認知症介護基礎研修	*2人	3月	eラーニング

②相談員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
令和5年度 杉並区役所介護保険課情報提供の会	*1人	5月	杉並区役所介護保険課
w令和5年度 ケアマネ協議会独自研修① 杉並区における医療介護連携について	*2人	5月	杉並区役所介護保険課
w令和5年度第一回東京都認知症地域対応力向上研修 DASK研修	1人	5月・6月	東京都健康長寿医療センター
w令和5年度社会福祉士実習指導者講習会	1人	6月	東京都社会福祉士生涯学習センター
w精神保健福祉基礎研修	1人	6月	杉並区役所高齢者在宅支援課
支援者向けセミナー(配車アプリ編)	1人	6月	杉並区外出支援相談センターもーびる
w令和5年度前期「相談援助技術研修1」	*1人	6月	中部総合精神保健福祉センター
w令和5年度 ケアマネ協議会受託研修① 伝えると・伝わること	*2人	6月	杉並区役所介護保険課
w「アウトリーチ支援研修(前期)」	1人	6月	中部総合精神保健福祉センター
wR5(前期)認知行動療法研修	1人	6月	中部総合精神保健福祉センター
w発達障害支援研修	1人	7月	杉並区役所高齢者在宅支援課
w令和5年度認知症地域支援推進員研修(新任者研修)	1人	7月	認知症介護研究・研修東京センター
w相談援助技術研修2 (障害の特徴と対応の在り方を学ぶ)	2人	7月	中部総合精神保健福祉センター
「セルフ・ネグレクトへの支援」	1人	7月	東京都福祉保健財団
w令和6年度改正に向けたケアマネジメントとコロナ禍の 振り返り	1人	7月	杉並区ケアマネジャー協議会
wR5精神保健福祉研修 (前期)「パーソナリティ障害の理解を支援」確認	*1人	8月	中部総合精神保健福祉センター
w令和5年度前期「非対面の相談支援」	*2人	8月	中部総合精神保健福祉センター
令和5年度 虐待対応従事者研修	1人	8月	在宅医療・生活支援センター
w高齢者虐待対応における居宅介護支援事業所と地域 包括支援センターの連携	1人	8月	杉並区役所高齢者在宅支援課
w令和5年度杉並区虐待対応従事者研修(第3回)	*2人	8月	杉並区役所
令和5年度 擁護者による高齢者虐待対応研修(基礎研 修第2回)	1人	9月	東京都福祉保健財団
地域連携医療相談室主催 勉強会	1人	9月	東京衛生アドベンチスト病院
高齢者虐待対応研修	1人	9月	杉並区役所高齢者在宅支援課
令和5年度東京都認定調査員現任研修	*1人	9月	東京都福祉局高齢者施策推進部 介護保険課
w令和5年度 第1回主任介護専門員研修 これからのケアマネジャーの人材育成～ケアマネジャー のワーク・エンゲイジメントの視点から	*2人	9月	杉並区役所介護保険課

地域づくり研修「人が集まる、伝わるチラシの作り方」	1人	10月	杉並区役所高齢者在宅支援課
w令和5年度東京都主任介護専門員研修	1人	10月・2月	東京都介護支援専門員研究協議会
w高齢者虐待対応研修	1人	10月	公益財団法人東京都看護協会
w第3回受託研修「適切なケアマネジメント手法の概要とねらい、各場面での活用方法」	2人	11月	杉並区ケアマネジメント協議会
w令和5年度保険者機能強化のための区市町村研修	1人	11月	東京都福祉局施策推進部
w令和5年度杉並区介護予防ケアマネジメント研修(実践編)	*2人	11月	杉並区役所地域包括ケア推進担当課
令和5年度困難事例対応研修 支援困難事例と向き合う「なぜ」から始める支援	2人	11月	杉並区
新しい認知症観と認知症の人の希望をかなえるヘルプカード～地域で一緒につかいはじめませんか～	1人	11月	杉並区役所・高齢者在宅支援課・地域包括ケア推進係
w令和5年度 ケアマネ協議会受託研修④今だから学べるリ・アセスメントシートの視点と活用	1人	11月	杉並区役所介護保険課
介護予防ケアマネジメント	*4人	11月	杉並区地域包括支援センター ケア24 和田
w令和5年度高齢者の食生活支援講演会「在宅訪問栄養指導とは？」	1人	12月	杉並区
wダブルケアラーにどう関わるか	1人	12月	杉並区
地域多職種勉強会	1人	2月	岡田医院
区 課題別研修「カスタマーハラスメント対応」	1人	2月	杉並区
福祉用具サービス業務従事者講習会(特別講習)～福祉用具と住宅改修～	1人	2月	東京都福祉保健財団
擁護者による高齢者虐待対応研修(応用研修B)	1人	3月	東京都高齢者・障害者権利擁護支援センター
認知症講演会	1人	3月	杉並区役所
令和5年度 困難事例対応研修 支援困難事例と向き合う～対象者(世帯)の理解と支援～	*2人	3月	杉並区役所 在宅医療・生活支援センター
R5年度在宅医療推進多職種研修	1人	3月	公益財団法人東京都看護協会

③生活相談員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
生活相談員 リスクマネジメント研修会	1人	2月	東京都社会福祉協議会
w東京都介護支援専門員更新研修(実務経験者) 88時間オンライン研修コース	1人	12月	東京都福祉保健財団
w介護支援専門員更新研修	1人	11月	東京都福祉保健財団

④看護師・保健師

研修名	受講者数	実施月	実施主体
高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修会	1人	7月	東京都社会福祉協議会

⑤介護支援専門員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
w杉並区における医療介護連携について	1人	5月	杉並区ケアマネ協議会
気管支喘息とCOPD 在宅でのポイント	*2人	6月	上井草在宅支援診療所
事例検討会	1人	6月	杉並区地域包括支援センター ケア24 和田
w多問題を抱える利用者、家族への重層的支援	1人	6月	杉並区ケアマネ協議会
KSS事例検討会 ケアマネ交代。ケアマネはどう対応すべきだったか。	*5人	7月	KSS
w高齢者虐待防止	1人	7月	杉並区保健福祉部 介護保険課事業者係
w杉並区 令和5年度虐待対応従事者研修 第1回	*1人	7月	杉並区
高齢者虐待対応における居宅介護支援事業所と地域包括支援センターの連携～受付、事実確認と対応計画について～	*1人	8月	杉並区在宅医療・生活支援センター
福祉職場で生かすアンガーマネジメント	1人	9月	東京都社会福祉協議会
w実現した家族との花見	1人	9月	訪問看護ステーションリカバリー
薬剤師との連携	1人	9月	杉並区地域包括支援センター ケア24 上井草・ケア24 下井草
w杉並区ケアマネジャー協議会 第2回受託研修 介護支援専門員の倫理 講師:いなば法律事務所代表 稲葉一人先生	*1人	10月	杉並区ケアマネ協議会
w主任ケアマネ研修	1人	10月・11月・12月・1月	東京都介護支援専門員研究協議会
ケアマネ不足を考える。	1人	2月	杉並区地域包括支援センター ケア24 上井草
令和5年度第2回井草圏域医療地域ケア会議	*1人	2月	井草圏域在宅医療地域ケア会議 運営委員
在宅リハビリを効果的に行うための連携とは？	1人	2月	井草圏域在宅医療地域ケア会議
杉並版BCPを考える	1人	3月	杉並区ケアマネ協議会
w令和5年度 第4回独自研修	1人	3月	杉並区ケアマネ協議会

⑥栄養士・調理師

研修名	受講者数	実施月	実施主体
栄養士のための情報交換会	1人	7月	東京都社会福祉施設協議会
w令和5年第1回栄養管理者講習会 (災害時の栄養士の役割・杉並区の災害対策)	1人	7月	杉並保健所健康推進課
To-be 小河原流で学ぶ嚙下調整セミナー	1人	10月	林兼産業株式会社

施設間交流研修(管理栄養士・栄養士)	1人	10月	杉並施設長会
wクリスマスの嚙下調整食大量調理セミナー	1人	10月	ニュートリー株式会社
食品衛生講習会(病院・福祉・集団給食)	1人	10月	杉並区保健所生活衛生課 食品衛生担当
スチコンで作る！みんな大好きおやつ特集	1人	11月	株式会社コメントカトウ
埼玉西部地区在宅医療の食支援を考える会～最後まで 食べることをあきらめない	1人	11月	大塚製薬株式会社
w栄養ケアマネジメント研修	1人	2月	東京都社会福祉協議会
w令和5年度第2回栄養管理者講習会 (栄養ケアプロセスの活用について)	1人	1月	杉並保健所健康推進課

⑦事務職員

研修名	受講者数	実施月	実施主体
令和5年度 算定基礎届事務講習会	1人	6月	日本年金機構 新宿年金事務所
w給与計算システム 社会保険算定編	1人	6月	㈱CIJ SWINGサポートセンター
w令和5年度 社会福祉法人会計 入門研修	1人	7月・9月	東京都福祉人材センター研修室
w決算書の読み方と分析セミナー	1人	9月	日本ビズアップ株式会社
w給与計算システム『基礎操作編』	1人	9月	㈱CIJ SWING サポートセンター
w産休・育休の社会保険手続き web セミナー	1人	10月	日本年金機構 杉並年金事務所
給与計算システム[年末調整編]	1人	11月	㈱CIJ SWINGサポートセンター

⑧運転手

研修名	受講者数	実施月	実施主体
該当なし			

⑨理学療法士

研修名	受講者数	実施月	実施主体
該当なし			

(5)その他

研修名	受講者数	実施月	実施主体
該当なし			

2. 超過勤務時間数の推移について

2022年度、2023年度の職員の超過勤務時間数の推移をご報告します。

1人あたりの月平均

事業所名	2022年度 超勤時間数	2023年度 超勤時間数
上井草園	2.9	3.1
サンフレンズ善福寺	4.2	4.1
おあしす上井草	0.3	3.0
和田ふれあいの家	2.0	2.2
和泉ふれあいの家	3.1	5.6
松ノ木ふれあいの家	8.0	14.6
和田サ高住	2.0	0
ケア24 上井草	1.8	3.7
ケア24 善福寺	0.8	0.3
ケア24 和田	2.6	3.4
上井草支援センター	0.5	0.1
法人事務局	2.5	4.1
全事業所の月平均	2.6	4.0

職種別1人あたりの月平均（2023年度の実績の多い順）

職 種	2022年度 超勤時間数	2023年度 超勤時間数
生活相談員・介護支援専門員（施設系）	7.1	1.2
生活相談員（在宅系）	6.0	7.6
（管理）栄養士・調理師	5.3	6.4
所長（係長）	3.8	6.9
看護職員	3.6	2.8
事務職員	3.6	4.3
介護職員	3.2	3.9
相談員（包括）	1.8	2.7
介護支援専門員（居宅系）	0.9	0.2
理学療法士	0	0

*生活相談員は1人を除き介護と兼務です。

2023 年度に最も多く超過勤務した職員の月平均超過勤務時間数は 25.3 時間、最も少なかった職員の月平均超過勤務時間数は 0 時間であった。

前年度と比べ全事業所の 1 事業所あたりの月平均超過勤務時間数は 1.4 時間増加した。

和泉ふれあいの家の超過勤務時間は所長が時間管理者に変わったこと、および人員配置基準が変更になり職員が不足したためである。

また、所長（係長）の超過勤務時間が 2022 年度に比べて多いのは、2023 年度から時間管理者の所長が増えて計算対象が変わったためである。

特別養護老人ホーム上井草園の調理職員が定着せず、調理員の負担が増え超勤が多くなった。

3. 人数・平均在籍年数・平均年齢について

2024. 3. 31 現在の職員状況についてご報告いたします。

	人数	平均在籍年数	平均年齢
常勤職員	105 人	9 年 11 ヶ月	42.6 歳
非常勤職員	125 人	7 年 5 ヶ月	61.3 歳

世代別分布

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
常勤職員	22 人	18 人	35 人	20 人	10 人	0 人	105 人
非常勤職員	1 人	6 人	8 人	31 人	54 人	25 人	125 人

4. 採用試験実施回数・採用人数について

2023 年度に開催した常勤職員採用試験の状況についてご報告いたします。

職員採用試験実施回数	受験者数	採用人数
34 回（同日開催あり）	37 人	10 人

2023年度 健康診断1

①健康診断結果

健康診断1は9月に2日間で実施。対象者は151人、うち1人は個人で受診、1人は未受診。

表1 健康診断1受診者数

対象者	151	
受診者	男	65
	女	84
	計	149
個別受診者	1	
未受診者	1	

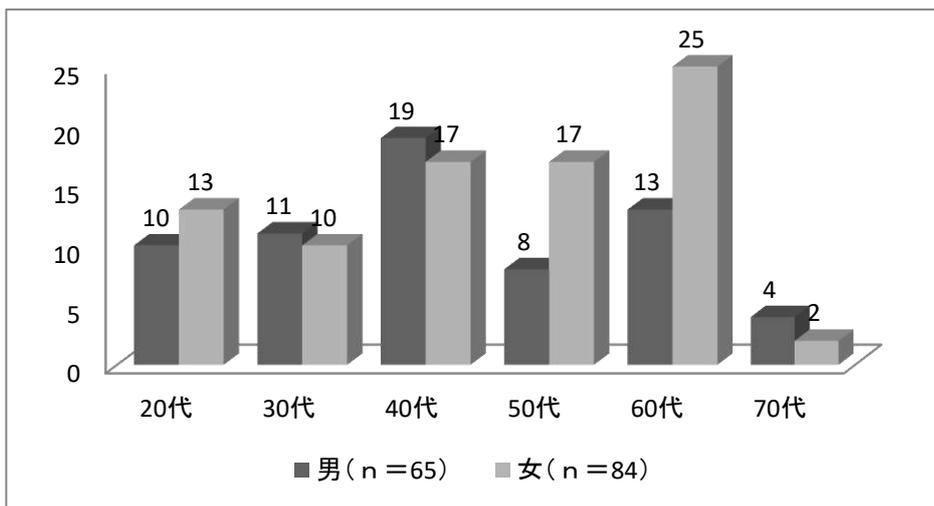


図1 年代別受診者数

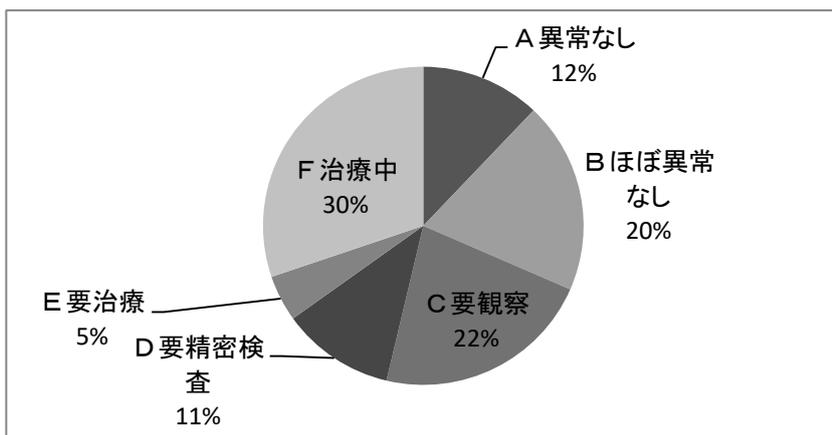


図2 判定別割合 (n=149)

全体の結果はA異常なしとB異常なしを合わせた32%が一番多かった。次にF治療中が30%、C要観察は22%、D要精密検査は11%、E要治療は5%だった。D要精密検査、E要治療の結果が出ている人は、次の健康診断までに一度受診することをお勧めする。

C要観察、D要精密検査、E要治療の結果で一番多かった項目は脂質だった。食事を見直したり、体を動かす機会を取り入れてみてはいかがでしょうか。夜勤者以外は健康診断は年1回。生活習慣を改善する機会にしていきたい。

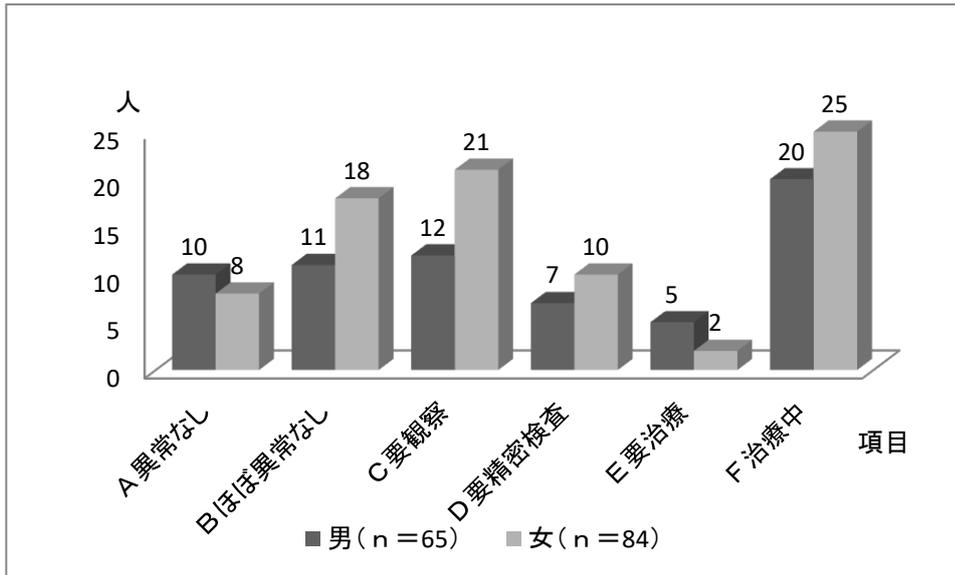


図3 男女別判定別人数

②事後措置

健康診断の結果は産業医に確認してもらい、その後個別通知で受診勧奨等を行った。健康診断1の個別通知者は13名。また、就業制限の該当者はなし。

表2 個別通知内容(重複あり)

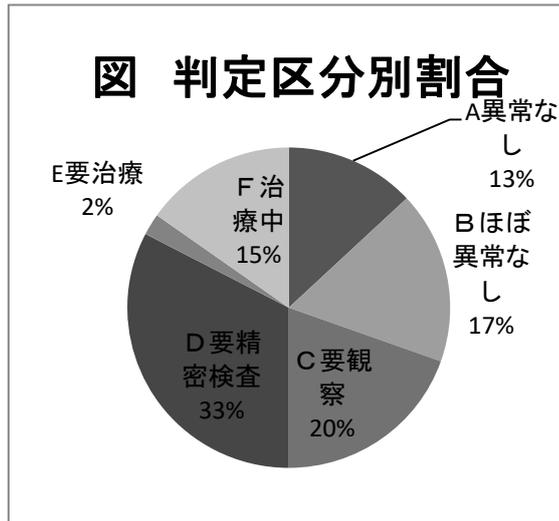
通知内容	人数
脂質	4
糖尿病	1
貧血	3
尿酸	2
肝機能	5
尿検査	1

2023年度 健康診断2

対象者=夜勤者=46人

受診者性別	人
男性	25
女性	21
計	46

判定区分	人
A異常なし	6
Bほぼ異常なし	8
C要観察	9
D要精密検査	15
E要治療	1
F治療中	7
計	46



個別通知者=6人

検査項目内訳(重複あり)	
血圧	1
脂質	3
尿酸	1
肝機能	3

腰痛健康診断問診票結果

腰痛の有無	人
腰痛なし	41
腰痛あり	55
計	96

個別通知者=0人

痛みの強さ	人	受診中
時々休憩をしないと仕事が続かない	0	0
休憩するほどではないが、かなり痛い	14	2
時々軽い痛みを感じる程度	29	1
腰がだるい程度	10	0
未記入	2	0
計	55	3

作業前体操をしているか	人
はい	10
いいえ	43
未記入	2
計	55

所属	人
上井草園	6
サン善	2
おあしす	2
計	10

日常生活において運動をしているか	人
はい	15
いいえ	38
未記入	2
計	55

2023年 腰痛健康診断問診票結果

提出者人数: 146名

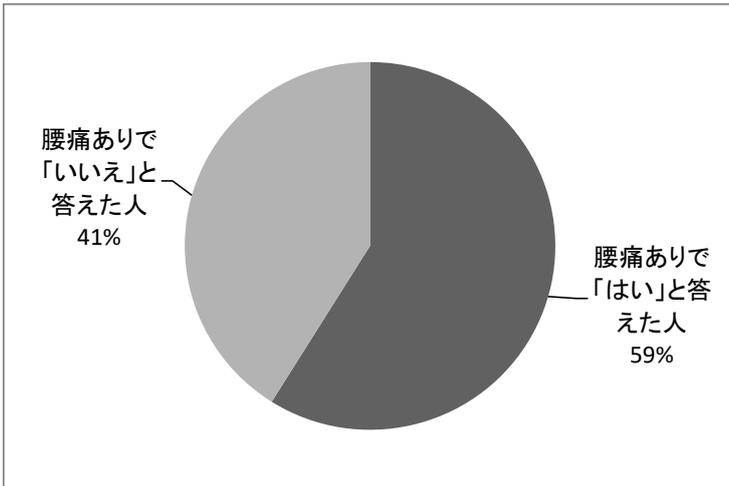


図1 現在の腰痛の有無 (n=146)

現在腰痛がある、業務についてから腰痛発生または激しくなる、最近1か月間に腰痛ありで「はい」と答えた人=86人=59%
 現在腰痛がある、業務についてから腰痛発生または激しくなる、最近1か月間に腰痛ありで「いいえ」と答えた人=60人=41%

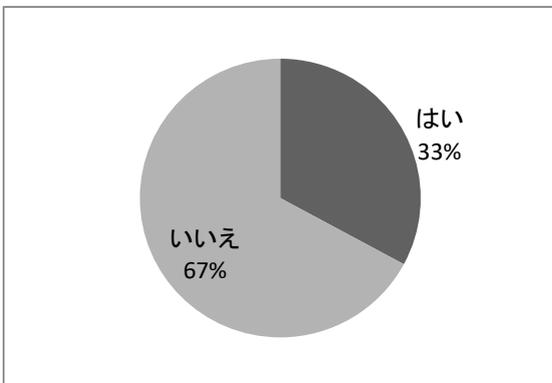


図2 今まで腰痛になったことがあるか (n=146)

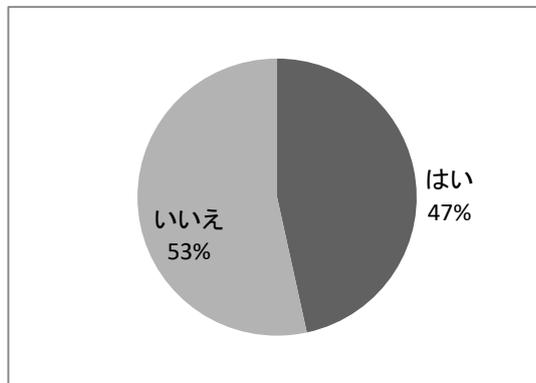


図3 現在の業務に就いてから腰痛が発生したか (n=146)

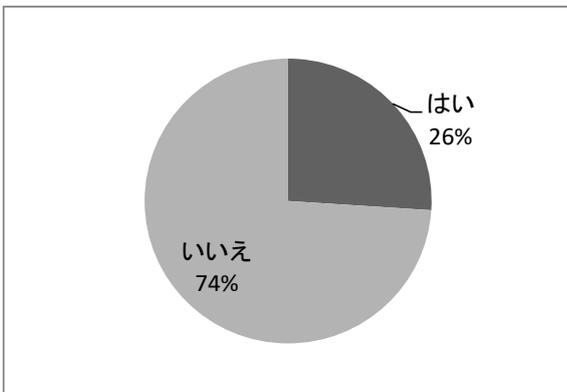


図4 現在の業務に就いてから腰痛が激しくなったか (n=146)

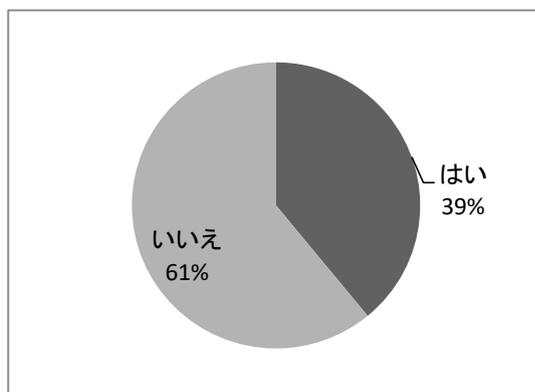


図5 最近1ヶ月間に腰痛が発生したか (n=146)

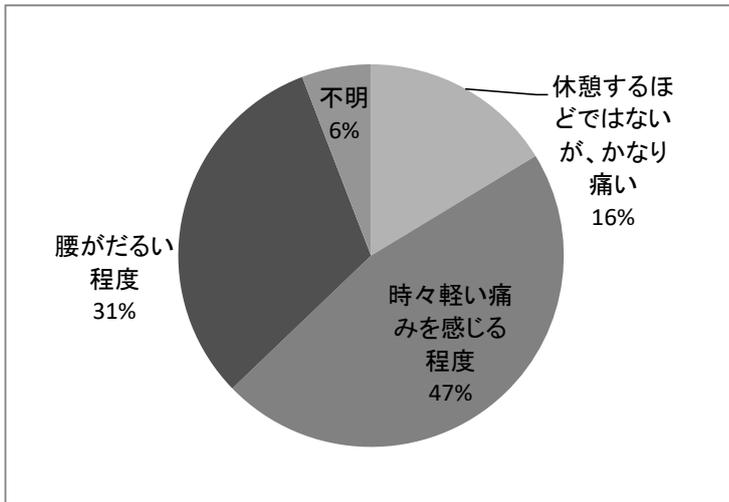


図6 現在の痛みの強さはどうか(n=86)

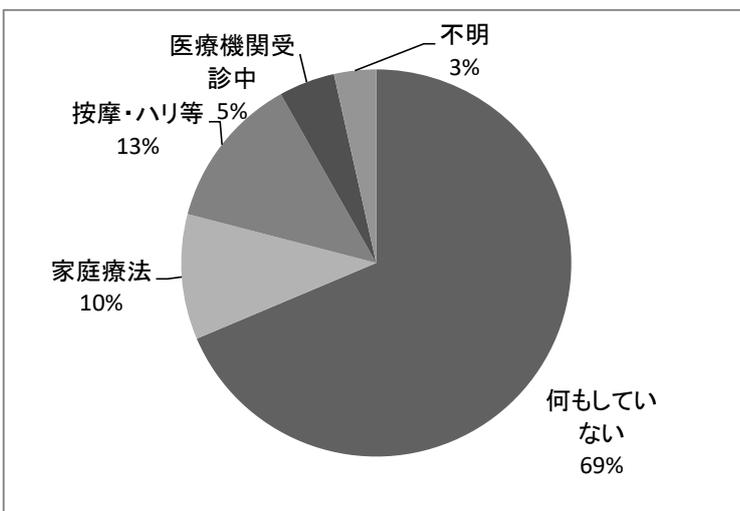


図7 現在腰痛の治療を受けているか(n=86)

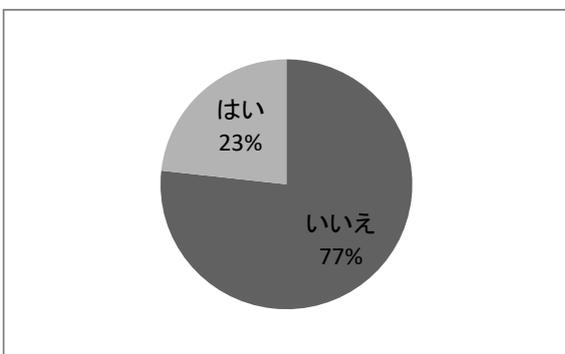


図8 作業前体操をしていますか(n=86)

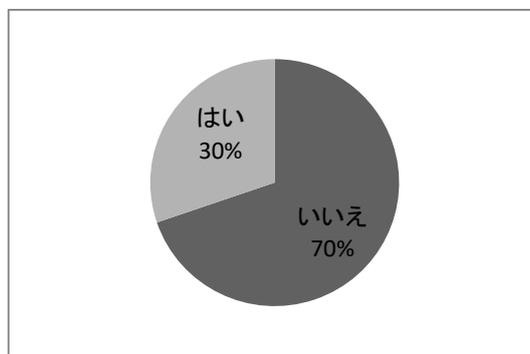


図9 運動をしていますか(n=86)

腰痛健康診断の個別通知者はいませんでした。

今回腰痛があると回答した人は59%でした。腰痛の自覚があっても何もしていない方も多く、家庭での生活習慣の改善や体のメンテナンスも大切です。また、各自の取り組みとともに職場での腰痛予防対策が必要です。

2023 年度 ストレスチェックの集団結果

健康リスクの評価の男女別の表は以下になります。健康リスクの全国平均を 100 と設定してあり、100 より低い数のほうが健康リスクは低いことになります。

今年度、男性は健康リスクが 100 を超えました。医療・福祉の業種平均 99 よりも高く出しています。女性は業種平均、全国平均のどちらとも下でした。

表1 男性職員の健康リスク評価表

	健康リスク		
	仕事の負担	職場の支援	総合
全国平均	100	100	100
業種平均(医療・福祉)	101	99	99
2023 年サンフレンズ男性	102	101	103
2022 年サンフレンズ男性	96	90	86
2021 年サンフレンズ男性	93	96	89
2020 年サンフレンズ男性	100	98	98
2019 年サンフレンズ男性	95	96	91

表2 女性職員の健康リスク評価表

	健康リスク		
	仕事の負担	職場の支援	総合
全国平均	100	100	100
業種平均(医療・福祉)	101	94	94
2023 年サンフレンズ女性	97	89	86
2022 年サンフレンズ女性	97	83	80
2021 年サンフレンズ女性	97	91	88
2020 年サンフレンズ女性	96	85	81
2019 年サンフレンズ女性	96	89	85

* 仕事の負担 = (仕事の量的負担とコントロール度)

* 職場の支援 = (上司・同僚の支援)

今年度も高ストレス者に面談のお知らせをしましたが、希望者はいませんでした。

VI 事業所別実績報告

1 利用者状況

(2024年 3 月 31 日現在)

種 類	施設名	定 員	年間平均 利用率	年間平均 要介護度	平均年齢	平均 在籍年数	年間新規 入所者数
		(名)	(%)	(要介護)	(歳 月)	(年 月)	(名)
特別養護老人 ホーム	上井草園	75	92.8	4.00	89.2歳	2年8カ月	30
	サンフレンズ 善福寺	30 (4~1月)	93.0	3.90	88.0歳	2年6カ月	10
		36 (2~3月)	72.5				
通所介護	和田	26	81.6	2.4	86.1歳		28
	和泉	38	74.0	1.9	87.6歳		48
	松ノ木	38	71.3	2.0	88.0歳		47
小規模多機能型 居宅介護	おあしす 上井草	29	91.4	2.4	86.1歳	1年7カ月	14

2 経営状況 (事業活動収支のみ)

区 分 (千円)	収入	支出	収支差	収支差率
	(A)	(B)	(A) - (B)	%
上井草園	396,017	334,073	61,944	16%
サンフレンズ 善福寺	191,809	184,290	7,519	4%
和田	72,464	66,304	6,160	9%
和泉	93,272	88,039	5,233	6%
松ノ木	82,133	83,728	-1,595	-2%
おあしす	85,635	78,619	7,016	8%
合 計	921,330	835,053	86,277	9%

3 ショート利用状況

種 類	施設名	定 員	年間平均 利用率	年間平均 要介護度	1日平均利 用者数	年間延べ利用者数
		(名)	(%)	(要介護)	(名)	(名)
短期入所 生活介護	上井草園	9	100.5	2.95	9.0	3,149
	サンフレンズ 善福寺	空床利用のみ (4~11月)	16.2	2.19	0.6	158
		4 (12~3月)	105.2		4.2	509

4 資格保有状況

(2024年3月31日現在)

区 分	特養		小多機	通所介護・サ高住			居宅	地域包括			計
	上井草園	善福寺	おあしす	和田	和泉	松ノ木	上井草	ケア上井草	ケア善福寺	ケア和田	
総職員数	64	29	11	22	23	18	5	6	9	8	195
(内訳)											
介護福祉士	17	12	6	5	9	7	5	2	3	2	68
実務者研修	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
初任者研修	1	1	1	3	1	1	0	0	0	0	8
介護職員基礎研修	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1級ヘルパー	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
2級ヘルパー	17	3	4	4	4	6	0	0	0	0	38
社会福祉士	5	4	4	1	1	0	0	5	6	5	31
精神保健福祉士	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
保健師	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4
看護師	3	2	1	2	2	2	0	1	1	1	15
准看護師	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
(管理) 栄養士	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
調理師	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
理学・作業療法士	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
マッサージ師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	2	5	2	2	1	2	5	3	5	4	31
主任介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	2	1	2	2	7
合 計	55	31	18	17	22	19	12	13	20	16	418

※ 契約・派遣・短時間職員含む。重複して資格を持つ者はそれぞれにカウント。

5 実習生・研修生等受入状況 (延人数)

種 別	上井草園	善福寺	おあしす	和田	和泉	松ノ木	居宅	ケア上井草	ケア善福寺	ケア和田	計
介護福祉士養成校実習	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
初任者・実務者研修実習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉士養成校実習	1	2	4	3	0	0	0	2	2	0	14
看護師養成校実習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公務員初任行政研修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教員資格取得希望者介護等体験実習	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
中学・高校生体験学習	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
そ の 他	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
合 計	3	2	6	8	0	1	1	2	2	0	25

6 和泉ふれあいの家 2023年度配食実績

	総食数 (平均食数/日)	収入	支出	収支
4月	371食 (14.8食)	289,300	224,230	65,070
5月	394食 (14.5食)	306,300	232,820	73,480
6月	481食 (12.1食)	248,900	206,540	42,360
7月	300食 (11.5食)	238,250	202,430	35,820
8月	339食 (12.5食)	266,800	215,520	51,280
9月	328食 (12.6食)	256,000	209,460	46,540
10月	328食 (12.6食)	279,450	220,970	58,480
11月	370食 (14.2食)	291,050	226,570	64,480
12月	370食 (14.2食)	281,400	221,500	59,900
1月	350食 (14.5食)	274,700	217,840	56,860
2月	343食 (13.7食)	268,500	215,080	50,720
3月	326食 (12.9食)	263,050	212,910	50,140
合計	4,300食 (13.3食)	3,263,700	2,605,870	655,130

Ⅶ 事故報告

2023年度 オンブズマン委員会 苦情要望報告書件数報告（年度最終報告）

No	日時	事業所	要望者	内容	原因	対応
1	8月25日	ケア24和田	本人	介護予防でヘルパーを利用する際に共同作業への参画を求められ、精神的に参っている。	介護保険におけるヘルパー給付条件に合わなければ、利用の継続が困難となる旨の説明が、本人の不安を増強させてしまった。	要望に対しては謝罪。 制度利用について再協議。 担当者は交代。
2	11月13日	ケア24上井草	利用者家族	担当者に住宅改修の依頼をしたのに工事が進んでいない。	担当者変更による引継が十分でなく、工事の調整が進んでいなかった。	謝罪。 住宅改修の調整・実行。
3	10月24日	サンフレンズ 善福寺	利用者家族	遠方から面会に来ているのに、四角四面に時間制限を設けられるのが事務的だ。転倒後の受診時の情報の内容に、こちらの認識と隔たりがある。	感染予防対応のため、一組30分程度としている面会制度への不満。 施設内で転倒して緊急受診した際、血種が存在と保存療法の指示が確認された。それを家族に報告したところ、転倒前の受診で血種が確認されていたのに放置されていたとご家族が受け取り、混乱を招いてしまった。	面会ルールに対する心情については受け止めさせていただくと伝え、受診情報については補足説明により確認できた。
4	11月27日	サンフレンズ 善福寺	近隣住民	改修工事について、事前に受けた説明が守られていない。工事時間や休日にも作業しており、大きな音が出るので迷惑している。	事前に説明していた工事時間や工事日が守られず、解体により大きな音が出ていた。	施工業者と施設長とで謝罪及び残りの工期について説明した。
5	11月27日	おあしす上井草	利用者家族	職員から両頬を叩かれたと本人が訴えている。事実の確認を行いたい。	家族との協議及び事実確認を重ねた結果、当該事実は確認されなかった。しかし、日常会話の中で本人の心情に十分な配慮がされなかったため、本人の訴えにつながった可能性が想定される。	当面は、対象職員が利用者とはマンツーマンにならないようシフトを調整。
6	11月28日	和泉 ふれあいの家	地域住民	送迎車が歩行者などにお構いなしに走っていく。歩行者がいたら待ったり、先に行くなら会釈くらいするべきではないか。	日常的に使用する送迎ルートにおいて、住民にそのように感じさせてしまっているポイントがあったと思われる。	通報者には謝罪。ルート中の配慮ポイントを再確認。危険が予測されるルートやスケジュールの見直し。
7	12月19日	和泉 ふれあいの家	本人	トイレ誘導の際、失禁の有無を確認する目的で利用者に声をかけたところ、利用者を傷つけてしまった。	直接的な表現を使って声をかけたことで、利用者を傷つけてしまった。	本人・家族へ謝罪。
8	1月25日	ケア24善福寺	利用者家族	介護保険認定結果の確定が遅延する中で、認定区分変更中は何もサービスが利用できないという主旨の説明を受けたことでたいへん困ったと杉並区へ苦情が入った。	入退院の繰り返しにより状況は日々変わる中でサービス利用相談であり、暫定利用・小規模多機能を含めた多様な選択肢の説明が同時に行われたが、前提となる認定結果がなかなか決まらなかったことに対する杉並区への要望。	杉並区からの事情確認に回答。 ケア24への直接の要望は無し。

今年度はそれぞれの地域包括支援センターにおいて、説明不足や対応不足による要望をいただきました。相談内容が多様化・複雑化し、その量も増えていく中で、マンパワーの不足から十分かつきめ細かな対応ができていない実態がありました。次年度は地域包括支援センターの体制が大幅に拡充されていきますので、課題の克服に取り組んでいくこととなります。

おあしす上井草と和泉ふれあいの家の事例は、利用者との普段の接遇、コミュニケーションのあり方が問われるものでした。この2事例については感染対応で中止していたオンブズマン協力員会議で対応の検討を行い、現場で活かせる改善点について話し合いました。協力員会議は今後も定期的に開催していきます。

2023年度 車両事故報告（年度最終報告）

No	日時	事業所	内容	原因	対応
1	4月4日	和田 ふれあいの家	後方から走ってきた自転車が通り過ぎるまで停車して待機していたが、追い越される際に接触。駐車できる位置まで移動して現場に戻るが、相手方はいなかった。	道幅が狭い中でのすれ違いであったため、接触したと思われる。	念のため、警察による事故対応を行った。
2	5月1日	松ノ木 ふれあいの家	ミラーの無い曲がり角から出現した新聞配達自転車の接触。	視界が悪い中での接触。	警察による事故対応。双方に傷害・破損等無しで終了。
3	6月21日	和泉 ふれあいの家	対向車とすれ違う際に自車を外構に接触。翌朝に車体の傷で発覚した。	狭い道でのすれ違い時における自損。外構接触時にすぐに報告していなかった。	自損処理。事故発生時の対応について再指導。
4	7月27日	和田 ふれあいの家	左折時にポールに接触。	左折時の内輪差認識ミス。	警察による事故対応。双方損害無し。
5	11月8日	和泉 ふれあいの家	バック時に後方にいた車両に気づかず、接触。	後方確認の不足（ルームミラー・直視）	警察による事故対応。双方損害無し。
6	1月23日	和泉 ふれあいの家	事業所内駐車場で移動の際、事業所出入り業者の車両と接触。	後方確認の不足（サイドミラー）	警察による事故対応。双方損害無し。
7	2月6日	松ノ木 ふれあいの家	バスポイントに停車していた二輪車を避けようとしたが、雪道に滑りポールに接触。	チェーンは装着していたが、通常の場所に停車することに拘り、駐車の難易度が上がった。	警察による事故対応。双方損害無し。
8	2月8日	和泉 ふれあいの家	駐車車両を避けながら走行したところ、逆側の外壁に接触。ミラー破損。	車幅の見込不足。	警察による事故対応。自車修理
9	2月21日	和田 ふれあいの家	自事業所の車庫入れ時にガードレールに接触。	ハンドル操作ミス。	警察による事故対応。双方損害無し。
10	3月19日	和泉 ふれあいの家	バック時に路上の消火器ボックスに接触。	後方確認の不足。	警察による事故対応。双方損害無し。

2023年度 介護事故報告（年度最終報告）

No	日時	事業所	内容	原因	対応
1	8月27日	サンフレンズ 善福寺	排泄介助の際、左上腕部の一部変色を確認。	何らかの介助・体動中の負荷が考えられたが、原因の特定はできなかった。	介助方法や保護具の再検討。経過観察。治療費は保険対応。
2	9月28日	上井草園	ショートステイ利用者が立ち上がり時に転倒・骨折。	動作時の見守りが不足しており、転倒防止ができなかった。	治療費について保険対応。
3	10月4日	和泉 ふれあいの家	自宅マンション部屋まで送る手筈が、本人の要望でマンション入口で退去してしまい、その後に怪我をした状態で住民に保護された。	送迎の約束事は承知されていたが、イレギュラーな対応時に相談せずに自己判断してしまった。	受診支援。謝罪と経過観察。
4	12月27日	和田 ふれあいの家	送迎バスリフトで車椅子利用者を搭乗する際、後方へ転倒させてしまった。	ブレーキ・フックをマニュアル通りに扱っていなかった。	謝罪・経過観察。マニュアル更新。再発防止研修。
5	1月16日	和田 ふれあいの家	送迎車からの下車介助時、車の扉を閉めた際に利用者の指先に接触。痛みを伴った。	十分な体制が無い状態で複数人の見守りをする際の、周囲への注意が不足していた。	謝罪・受診支援。

発行日 2024年5月

社会福祉法人サンフレンズ

「2023年度事業報告書」

法人事務局

〒167-0023

東京都杉並区上井草3丁目33番10号

TEL 03-3394-9833

FAX 03-3394-9834

<https://www.3friends.or.jp/>